## HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.20

## HP Deployment Management ユーザーガイド

ドキュメントリリース日: 2013年2月(英語版) ソフトウェアリリース日: 2013年2月(英語版)



ご注意

#### 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

#### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許 諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテ ムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使 用許諾が付与されます。

#### 著作権について

© Copyright 1997-2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

#### 商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の登録商標です。

Intel®、Intel® Itanium®、Intel® Xeon®、およびPentium® は、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商 標です。

Microsoft®、Windows®、Windows® XP、およびWindows Vista®は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

#### http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

## サポート

次のHPソフトウェアサポートのWebサイトを参照してください。

#### http://support.openview.hp.com/

HP ソフトウェアサポートオンラインでは、対話型の技術支援ツールに効率的にアクセスできます。HP ソフトウェア サポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access\_level.jsp

HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

# 目次

第1章	はじめに	9
	HP Deployment Managementの概要	9
	HP Deployment Managementのプロセスの概要	10
	HP Deployment Managementの用語と概念	13
	標準インタフェース、PPM Workbench、HP Deployment Management	13
	パッケージとオブジェクトタイプ	14
	ワークフローとワークフローステップ	16
	リリース	17
	HP Deployment Management の環境	18
	HP Deployment Managementの統合	19
	関連ドキュメント	21
第2章	パッケージについて	23
	パッケージについて	23
	標準インタフェースのパッケージ	27
	[パッケージ詳細]ページの[ヘッダ]セクション	29
	[パッケージ詳細]ページの[ステータス]セクション	29
	[パッケージ詳細]ページの[メモ]セクション	30
	[パッケージ詳細]ページの [参照] セクション	30
	PPM Workbenchのパッケージ	31
	[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクション	32
	[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明細] タブ	34
	[パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ	35
	明細実行ログへのアクセス	36
	パッケージ実行履歴へのアクセス	37
	グラフィックビュー	37
	明細の権限の表示	38
	明細のトランザクション履歴の表示	39

	決定の詳細の表示	39
	ワークフローステップ情報のURLの表示	39
	[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ	40
	[パッケージ] ウィンドウの [参照] タブ	41
	参照リレーションシップ	42
	先行タスクリレーションシップ	47
	後続タスクリレーションシップ	47
第3章	パッケージの作成	49
	パッケージ作成の概要	49
	パッケージを作成する前に	49
	ワークフローの選択	50
	環境の確認	53
	オブジェクトタイプの確認	54
	オブジェクトタイプの表示	56
	パッケージの作成	57
	PPM Workbenchを使ったパッケージの作成	57
	既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成	59
	パッケージからの参照としてのパッケージの作成	62
	リクエストからの参照としてのパッケージの作成	64
	パッケージの一般情報の入力	65
	パッケージへの明細の追加	66
	パッケージへのメモの追加	70
	パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加	71
	パッケージ参照としての添付ファイルの追加	72
	パッケージ参照としての既存パッケージの追加	74
	パッケージ参照としての新規パッケージの追加	75
	パッケージ参照としてのプログラムの添付	77
	パッケージ参照としてのプロジェクトの添付	78
	参照としてのリリースの追加	80
	パッケージ参照としての既存リクエストの追加	82
	パッケージ参照としての新規リクエストの追加	84
	パッケージ参照としてのタスクの追加	85
	パッケージ参照としてのURLの追加	87
	パッケージの送信	88
第4章	パッケージの処理	89
	パッケージ処理の概要	89
	標準インタフェースを使ったパッケージの処理	90

	標準インタフェースでのパッケージの開始	91
	[パッケージの検索]ページからのパッケージの開始	91
	[マイパッケージ] ポートレットからのパッケージの開始	92
	通知リンクを使ったパッケージの開始	92
	標準インタフェースでのパッケージの承認	92
	標準インタフェースでのパッケージへのメモの追加	95
	標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加	96
	参照としての添付ファイルの追加	97
	パッケージ参照としての既存パッケージの追加	98
	パッケージ参照としての新規パッケージの追加	. 100
	パッケージ参照としてのプログラムの追加	. 102
	パッケージ参照としてのプロジェクトの添付	. 103
	パッケージ参照としてのリリースの追加	. 104
	パッケージ参照としての既存リクエストの追加	. 105
	パッケージ参照としての新規リクエストの追加	. 107
	パッケージ参照としてのタスクの追加	. 109
	パッケージ参照としてのURLの追加	. 110
	PPM Workbenchを使ったパッケージの処理	. 111
	PPM Workbenchからのパッケージの開始	. 111
	パッケージのステータスの確認	. 112
	「適格」なステップの実行	. 113
	ワークフローステップの処理	. 114
	意思決定ワークフローステップの実行	. 116
	実行ワークフローステップの実行	. 118
	メモの追加	. 120
	参照の追加、更新、削除	. 121
	参照の追加	. 121
	参照リレーションシップの更新	. 122
	参照の削除	. 123
	進行中のパッケージへのパッケージ明細の追加	. 123
第5章	パッケージの管理	. 125
	HP Deployment Management でのパッケージの管理	. 125
	パッケージのマージ	. 125
	新規パッケージグループの作成	. 127
	パッケージグループの編集	. 129
	パッケージの削除	. 131
	パッケージ明細のキャンセル	. 132
索引		. 133

# 第1章 はじめに

## HP Deployment Managementの概要

HP Deployment Management は HP Project and Portfolio Management Center(PPM Center) の一部であり、ソフトウェアコード、設定、コンテンツの移行とデプロイを自動化する製品です。HP Deployment Management では、これらのオブジェクトが複数のパッケージに分けられ、HPの設定ワークフローでモデル化されたビジネスプロセスに沿ってルーティングされます。ワークフローにより、各パッケージが必要なステップ(システムの構築、テスト、品質保証、ステージング、最終的なデプロイ)を自動的に経て進みます。

HP Deployment Management では、各パッケージで必要なアプリケーションコ ンポーネント (XML コンテンツ、HTML ファイル、Java プログラム、OracleR アプリケーションの設定など)が自動的にデプロイされます。たとえば、HP Deployment Managementを開発環境に接続すると、バージョン制御リポジトリ から Java ファイルがコピーされ、それらのファイルが品質保証環境に転送さ れます。次に、Java コンパイラを使ってすべてのファイルがコンパイルされ、 単一の Java プログラムにパッケージ化されます。カスタマはビルトインのス ケジューラを使用してデプロイをスケジュールできます。HP Deployment Managementによって、パッケージ情報、改変されたアプリケーションコンポー ネント、取得済みの承認、実行したデプロイなど、すべてのアクティビティ の監査履歴が保持されます。

## HP Deployment Managementのプロセスの概要

HP Deployment Managementは、ミッションクリティカルなアプリケーション に対するソフトウェアの変更をデプロイおよび監査するためのエンタープラ イズアプリケーションです。デプロイを正常に実行するために必要なすべて の情報(移行する環境やオブジェクトに関する情報など)が、「パッケージ」と いう単一の論理ユニットに収集されます。

パッケージはHP Deployment Management における基本の作業単位です。パッ ケージは、ビジネスワークフローを通して処理されるオブジェクトで構成さ れています。そのため、ソフトウェアの変更を正常に行うことができ、トラッ キングが容易になっています。



図 1-1. HP Deployment Managementの概要

パッケージはオブジェクトのグループで構成され、それぞれがオブジェクト タイプに属しています。各オブジェクトタイプは、パッケージに必要な情報 や受け入れ可能な追加情報を定義する一連のパラメータに関連付けられてい ます。

パッケージの詳細については、第2章「パッケージについて」(23ページ)を参照してください。

たとえば、[ファイル移行]オブジェクトは、環境間でファイル(オブジェクト) をコピーする標準のオブジェクトタイプです。

図 1-2. パッケージ



各パッケージ明細は個別に操作できますが、パッケージ明細およびオブジェ クトのグループは論理ユニットとして処理やトラッキングをまとめて行いま す。パッケージの処理方法は、適用する個々のワークフローによって異なり ます。図 1-3に、パッケージWorkbenchの[パッケージ]ウィンドウのサンプル パッケージを示します。

<i>∲</i> 0 パッケージ: 30015		
「パッケージ情報」		
パッケージ番号: 30015	パッケージ グループ:	III 作成者: Admin User
i兑明: path test		作成日時: 2013/04/12 🔟
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->	テスト->本番	副 パッケージ ステータス: 新規
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低	▶ 上位:
アサイン先グループ:	パッケージ タイプ: カスタマイズ	▼ 優先度シーケンス: 50
達成率(%): 0		
/ パッケージ明細】ステータス メモー 巨 参照 コーゴ	- ナデータ】	
シーケン オブジェクトタイプ アプ	リケーション 1	2
1 ファイル クライアント (なし)	Client File Name:	Sub Path: File Type:
2 ファイル移行 (なし)	File Location: サーバ	Sub-Path: test File Name
4		
新規明細		明細の削除
送信		OK 保存 キャンセル
準備完了		

図 1-3. [パッケージ] ウィンドウのサンプルパッケージ

ワークフローは、パッケージに関連付けられているビジネスプロセスです。 ワークフローは、パッケージ内のオブジェクトが従うパスを定義する一連の 論理ステップで構成されています。これらのワークフローの中には、コード レビューや管理者の承認などの意思決定プロセスもあります。通常、環境間 でのオブジェクトの移行を表す(または実際に実行する)ワークフローステッ プが1つ以上あります。

図 1-4では、[テストに移行] ワークフローステップが、環境間でのパッケージ オブジェクトの移行を表しています。[デザインレビュー] および [評価] ワー クフローステップは、ビジネスパッケージ関連の意思決定です。



図 1-4. [パッケージ] ワークフロー

## HP Deployment Managementの用語と概念

#### 標準インタフェース、PPM Workbench、HP Deployment Management

HP Deployment Managementでは、パッケージの操作を2つのインタフェースで 行います。標準インタフェースには、パッケージの詳細ページがあります。 PPM Workbenchには、パッケージWorkbenchがあります。これらの2つのイン タフェースには共通する機能もありますが、パッケージWorkbenchにはパッ ケージの詳細ページにはない機能があります。

パッケージWorkbenchとパッケージの詳細ページの主な違いとして、パッケージWorkbenchではパッケージ明細の追加とパッケージの送信を行うことができます。詳細ページからは、パッケージ明細の追加やパッケージの送信は行えません。

エンジニアや開発者はパッケージWorkbenchを使って、パッケージを作成およ び送信できます。パッケージの作成と送信には、専門知識が必要です。場合 によっては、本番サーバのパスワードが必要となります。このような情報の 中には、リソースがパッケージに関する意思決定を行うときに使用できない ものもあります。また、パッケージに関する意思決定を行うすべてのユーザ がPPM Workbenchにアクセスする必要があるわけではありません。

ソフトウェアおよびアプリケーションの変更をデプロイするためのパッケージの作成方法およ び送信方法については、第 3章「パッケージの作成」(49ページ)を参照してください。

パッケージの詳細ページからは、必要な権限があれば、ワークフローを通し てパッケージを処理できます。パッケージにメモや参照を追加したり、パッ ケージのステータスを決定したりすることが可能です。ただし、詳細ページ からは、パッケージの変更や削除はできません。

HP Deployment Management でパッケージを操作するために必要なライセンスとアクセス許 可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。 ワークフローを通してパッケージを処理する方法については、第4章「パッケージの処理」(89 ページ)を参照してください。パッケージの操作(コピー、キャンセル、マージなど)方法につ いては、第5章「パッケージの管理」(125ページ)を参照してください。

#### パッケージとオブジェクトタイプ

パッケージはHP Deployment Management における基本の作業単位です。パッケージは、ビジネスワークフローを通して処理されるオブジェクトで構成されます。

各パッケージ明細は個別に操作できますが、パッケージ明細およびオブジェ クトのグループは論理ユニットとして処理やトラッキングをまとめて行いま す。パッケージおよびパッケージ明細の処理は、そのパッケージに指定され ているワークフローによって大きく異なります。図 1-5に、[パッケージ]ウィ ンドウのサンプルパッケージを示します。

🕼 パッケージ: 30015		1×
「パッケージ情報		-
<mark>パッケージ番号:</mark> 30015 パッケージ グループ:	作成者: Admin User	
説明:  path test	作成日時: 2013/04/12 []	3
<mark>ワークフロー</mark> : (REFERENCE) 開発->テスト->本番	パッケージ ステータス: 新規	
アサインされたユーザ: Admin User 💵 優先度: 低 💌	上位:	_
アサイン先ヴループ:	優先度シーケンス: 50	
達成率 (%): 0		
パッケージ明細 ステータス メモ 三 参照 ユーザ データ		
シーケン オブジェクトタイプ アプリケーション 1	2	
1 ファイル クライアント (なし) Client File Name:	Sub Path: File Ty	pe:
2 ファイル移行 (なし) File Location: サーバ	Sub-Path: test File Na	ame
		►
新期日報		
	9211 3F25	
送信	OK 保存 キャンセル	۶.
準備完了		_

図 1-5. [パッケージ] ウィンドウのサンプルパッケージ

各オブジェクトはオブジェクトタイプに属しています。オブジェクトタイプ には、環境間で移動するときの動作を決定する関連コマンドがある場合もあ ります。コマンドを使って、各オブジェクトタイプで移行が何を意味するか を定義します。たとえば、[ファイル]オブジェクトタイプではファイルがコ ピーされるだけでかまいませんが、[データベーススクリプト]オブジェクト タイプではファイルのコピーと送り先データベースに対する実行が必要です。

オブジェクトタイプはユーザによる設定が可能です。HP Deployment Management および機能拡張にはあらかじめ定義されたオブジェクトタイプのライブラリ もあり、これらは次のカテゴリに分類されています。

- 標準オブジェクト:標準オブジェクトはあらかじめ定義されたオブジェクトタイプであり、HP Deployment Management で用意されているか、HP Deployment Management の機能拡張として提供されています。これらのオブジェクトタイプには、重要なアクションを管理する基本機能が備わっています。たとえば、ファイルシステムレベルのオブジェクトやオペレーティングシステムのコマンドの移行や実行、Oracleアプリケーションインスタンスへのパッチの適用などです。[ファイル移行]オブジェクトは、環境間でファイルをコピーする標準のオブジェクトタイプです。もっと複雑な標準オブジェクトタイプには [SQLスクリプト] があります。これはファイルをコピーするだけではなく、送り先データベースに対してスクリプトを実行します。
- カスタムオブジェクト:ソフトウェア環境やデプロイ管理プロセスの要件 を満たすには、多くの場合、標準オブジェクトタイプをカスタマイズした り、まったく新しいオブジェクトタイプを作成したりする必要がありま す。カスタムオブジェクトカテゴリは、これらのカスタマイズしたオブ ジェクトタイプと、HP Deployment Managementおよび機能拡張に用意され ているオブジェクトタイプを区別するためにあります。このようにカスタ マやコンサルタントが設計したオブジェクトタイプは、サードパーティ ツールや社内製品の統合によく使用します。
- PPM Center マイグレータオブジェクト: PPM Center のマイグレータオブ ジェクトは、設定情報のエクスポートおよびインポート機能を備えたオブ ジェクトタイプです。マイグレータオブジェクトには次のような用途があ ります。
  - o 異なるPPM Centerインスタンスの間で設定情報を転送する
  - **o** PPM CenterのデータベーススキーマからXMLファイルに情報を抽出する
  - XMLファイルからデータベーススキーマに情報を読み込む

つまり、デプロイ管理の標準のテストプラクティスを用いて、ワークフ ローを通してパッケージを処理し、設定情報を移行することが可能です。

#### ワークフローとワークフローステップ

ワークフローは、パッケージ内のオブジェクトが従うパスを定義する一連の 論理ステップで構成されています。ワークフローの設定とルーティングはカ スタマイズできます。また、ワークフローエンジンでは、ほぼすべてのビジ ネスプラクティスを処理できます。そのため、ユーザが業務を遂行するため に新しい一連のプロセスの採用を強要するのではなく、既存のプロセスを自 動化するワークフローを生成できます。

ワークフローステップの使用法は、機能の承認から実際の移行までさまざま です。たとえば、移行ステップでは、指定したオブジェクトが送り元環境か ら送り先環境へ自動的に移動されます。

ワークフローステップは、完全なワークフローを形成するために互いに連結 されるイベントです。HP Deployment Managementでは、次の4タイプのワーク フローステップを使用します。

- 意思決定ワークフローステップ:意思決定ワークフローステップでは、ユー ザまたはユーザグループが結果(作業の承認やレビューの完了など)を指 定する必要があります。
- 実行ワークフローステップ:実行ワークフローステップでは、システムによってアクションが実行され、ステップの結果が更新されます。アクションはトークン値の計算のように単純な場合も、ファイルのコピー、プログラムの実行、Webページの更新のように複雑な場合もあります。
- 条件ワークフローステップ:条件ワークフローステップは、複雑なワーク フロー処理に使用する論理ステップです。たとえば、前提条件の各ステッ プが完了した場合にのみワークフローの先に進むことを許可するステッ プは条件ステップです。
- サブワークフローワークフローステップ:サブワークフローワークフロー ステップは、サブワークフローとして使用できるようになっているワーク フロー全体を指します。サブワークフローを使うことで、あらかじめ定義 された手順を含むビジネスプロセスのモデル化に要する時間を短縮でき ます。



#### 図 1-6. [パッケージ] ワークフロー

#### リリース

HP Deployment Management では、リリースを設定して、一緒にデプロイする 必要があるパッケージと関連リクエストをまとめることができます。たとえ ば、XYZ社というソフトウェア会社が5か月後に製品の更新リリースを予定し ているとします。同社は製品を確実に投入できるように、HP Deployment Managementを使用してリリースを作成し、元のコードに加えたすべての変更 をトラッキングできるようにします。

開発者がパッケージを完成させると、そのパッケージがリリースに取り込ま れ、一緒に処理されます。必要な変更がリリースにまとめられているため、製 品のステータスと投入に向けた進捗状態をすばやく簡単に評価できます。

リリースの詳細と、作成および設定方法については、『HP Deployment Management Configuration Guide』を参照してください。

#### HP Deployment Management の環境

HP Deployment Management 環境は、単一の論理グループを表すサーバ、クラ イアント、データベース、ファイルシステムデータの一意の組み合わせで構 成されています。



#### 図 1-7. HP Deployment Managementの環境

環境サーバとは、その環境の主要ホストマシンです。このマシンでは、プラットフォームタイプ(例:UNIX®、Windows®)を問いません。通常、サーバは UNIXマシンであり、この環境のデータベースもホスティングしています。

環境のクライアントはリモートクライアントマシンであり、指定した環境の 識別も行います。ユーザがクライアント/サーバ環境でUNIXとWindows Server を併用したマルチプラットフォーム開発を行っている場合、クライアントは 決められているのが通常です。クライアントは、ユーザがアクセスするクラ イアントコードを格納するファイルサーバです。トランザクションフォーム などの多くのプログラムには、クライアントコンポーネント(例:ユーザイン タフェースコード)とサーバコンポーネント(例:データベースオブジェクト) の両方があります。19ページの図 1-8に、[環境]ウィンドウに表示される情 報の例を示します。

🕼 環境 : KINTANA_SERV	ER				×
環境名: KINTANA_SERV	ER	見日月:	ーション サーバをホストし	ているコンピュー	-タとデータベース
場所:		有効:	C (‡()	● いいえ	
ホスト アプリケーション 拡張	データ [ オーナーシップ ] ユーザ アク	セス「ユーザデ	-9		
サーバ					有効なサーバ: 一
名前:		タイプ	UNIX (Generic)	~	
ユーザ名:		パスワード		C	
NT ドメイン:		基本パス:			
接続プロトコル	Telnet 💌	転送プロトコル:	FTP	~	
ストリーム エンコーディング:	Big5			~	
クライアント					。 月XJJ/よりフ1アノド
名前:		タイプ:	UNIX (Generic)	~	
ユーザ名:		パスワード:		0	
NT ドメイン:		基本パス:			
接続プロトコル:	Telnet	転送プロトコル:	FTP	~	
ストリーム エンコーディング:	Big5			<b>v</b>	
データベース					自我がなテータヘース
サーバタイプ: Oracle Se	rver			~	
ホスト名:		接続文字列:			
ユーザ名:		パスワード		G	
Oracle SID:		ポート番号:			
DB リンク:		バージョン:			-
確認				OK 保	存 キャンセル

図 1-8. サンプル環境

HP Deployment Managementの統合

バージョン制御との統合

HP Deployment Managementでは、標準のバージョン制御システムすべて (RCS、 SCCS、PVCS、ClearCase、CCC/Harvest、Visual SourceSafeなど) と完全に統合 されています。HP Deployment Management アウトバウンド APIには、デプロイ 時のチェックイン、チェックアウト、プロモーションの全機能が備わってい ます。

ファイルシステムオブジェクトを新しい環境にデプロイすると同時に、バージョン制御で更新できます。これによって、バージョン制御リポジトリ、物 理環境、HP Deployment Managementのワークフローが同期されます。

#### HP Demand Management との統合

HP Deployment Managementは、アプリケーション環境に加えた変更の物理デ プロイを管理します。その他の重要な機能として、システムの安定性に関す る問題(リクエスト)の収集と分析も行われます。HP Deployment Management がHP Demand Managementと統合されているのは、このリクエスト収集を容易 にするためです。

HP Deployment Management と同様に、HP Demand Management もワークフロー ベースのシステムです。送信からクローズまで、リクエストの監査履歴を完 全にトラッキングできます。HP Demand Management とHP Deployment Management は緊密に統合されているため、リクエストからパッケージを自動 的に生成できます。

パッケージが完成すると、リクエストは自動的に更新されます。この閉ルー プ型の統合により、問題のステータスを一貫して把握できるほか、複数のア プリケーションにわたって冗長なデータを保持する必要がありません。

#### HP Deployment Managementの機能拡張によるサードパーティアプリケーションとの統合

HP Deployment Management の機能拡張はアプリケーション固有のモジュール であり、オブジェクト、ファイル、パッチのデプロイおよびデプロイ後のス テップを自動化します。ExtensionsはHP Deployment Management と完全に統合 されており、さまざまなエンタープライズアプリケーションの管理に適した 総合ソリューションとなっています。次の機能拡張があります。

- HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite
- HP Deployment Management Extension for Oracle Technology
- HP Deployment Management Extension for SAP Solutions

## 関連ドキュメント

次のドキュメントに関連情報があります。

- [HP Deployment Management Configuration Guide]
- 『コマンド、トークン、妥当性検証のガイドとリファレンス』
- [Reports Guide and Reference]
- 『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』
- 『HPエンティティガイド』

# 第2章 パッケージについて

## パッケージについて

HP Deployment Managementは、ソフトウェアコード、設定、コンテンツの移行 とデプロイを自動化する製品です。PPM Workbenchと標準インタフェースに より、これらのオブジェクトがパッケージに分けられ、ビジネスプロセス(ワー クフロー)に沿ってルーティングされます。ワークフローによって、各パッ ケージが必要なステップを自動的に経て進みます。

たとえば、開発環境 (Dev) からテスト環境 (Test) に、オペレーティングシステムのパッチをコピーするとします。オペレーティングシステムのパッチを徹底的にテストした後、本番環境 (Prod) にコピーします。

図 2-1. HP Deployment Management でのパッケージ処理



パッケージはHP Deployment Management における基本の作業単位です。各 パッケージはワークフロー(ビジネスプロセス)に従います。ビジネスプロセ スと同様に、パッケージに影響する意思決定が行われ、アクションが実行さ れます。各意思決定またはアクションがワークフローステップになります。

パッケージに関して意思決定が必要な場合、ワークフローステップを手動で 更新して、その意思決定を反映する必要があります。ただし、一部のアクショ ン(異なる環境間でのファイルの移行など)は自動的に実行されるように設定 できます。環境間でファイルを自動的に移行するワークフローステップを構 成するために必要な基本コンポーネントは次のとおりです。

- パッケージ:ファイルの名前、場所、タイプ、適用するワークフローを定 義します。
- ワークフロー:ファイルの移行(ワークフローステップ)をトリガする条件 と、ファイル移行の送り元環境と送り先環境を決定します。

パッケージを作成するとき、そのパッケージが経なければならないステップ を定義する単一のワークフローを割り当てます。図 2-2に、次のステップを含 むサンプルワークフローを示します。

- パッケージの承認
- 開発からテストへ(移行)
- パッケージのテスト
- テストから本番へ(移行)
- 終了



図 2-2. パッケージのワークフローとワークフローステップ

[パッケージの承認] および [パッケージのテスト] ワークフローステップは、 このワークフローにおいて手動で実行する必要があります。[開発からテスト へ] および [テストから本番へ] ワークフローステップは自動的に実行される ように設定します。



パッケージにワークフローを割り当てるには、ワークフローステップやワークフローの設定方 法の知識は不要です。ただし、ワークフロー、ワークフローステップ、環境内の情報にアクセ スする方法は理解している必要があります。

26ページの図 2-3では、パッケージWorkbenchに表示されるパッケージはワー クフローWorkbenchのワークフローと関連付けられています。移行ワークフ ローステップは、送り元環境および送り先環境を使って設定されています。環 境へのアクセスと設定には、環境Workbenchを使用します。

26ページの図 2-3のパッケージは、1つのパッケージ明細と1つのオブジェク トタイプを使って設定されています。パッケージ明細に含めることのできる オブジェクトタイプは1つのみです。オブジェクトタイプには、ファイルの名 前、場所、タイプ (ASCIIまたはバイナリ)など、ファイル(オブジェクト)を 移行するために必要な情報が含まれています。オブジェクトタイプの定義に よっては、追加情報が必要なことがあります。





オブジェクトタイプの定義は、オブジェクトタイプWorkbenchで行います。オ ブジェクトタイプWorkbenchでは、環境間でオブジェクトを移行するために使 用するコマンドシーケンスを開いてアクセスできます。これらのコマンド シーケンスの中には、特殊コマンドWorkbenchで定義されている特殊コマンド もあります。

パッケージを作成するには、次の知識が必要です。

- ワークフロー:ワークフロー Workbench で定義されています。
- 環境:ワークフローステップで指定され、環境Workbenchで定義されています。
- オブジェクトタイプ:オブジェクトタイプWorkbenchで定義されています。

HP Deployment Management でパッケージを操作するために必要なライセンス とアクセス許可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレ ンス』を参照してください。

## 標準インタフェースのパッケージ

標準インタフェースの[パッケージ詳細]ページでは、パッケージ情報の表示、 パッケージへのメモおよび参照の追加、ワークフローを通してのパッケージ の処理が可能です。リクエストの参照として新しいパッケージを追加すると きは、PPM Workbenchの[パッケージ]ウィンドウにはアクセスしません。こ の場合、標準インタフェースの[新規パッケージ]ページにアクセスします。

[新規パッケージ]ページで新しいパッケージを作成した場合、そのパッケージは送信可能な完全なものではありません。この場合、[新規パッケージ]ページが開き、標準インタフェースでパッケージが保存されます。パッケージを送信するには、PPM Workbenchの[パッケージ]ウィンドウを使ってパッケージ明細を追加する必要があります。28ページの図 2-4に、標準インタフェースからリクエストへの参照として作成したパッケージの詳細ページを示します。明細はまだありません。

## 図 2-4. [パッケージ詳細] ページ

バッケージ 30030

								保存		リセット
ヘッダ										
*パッケージ番号:	30030	パッケージ グループ:			作成者:	Admin User				
說明:	Dev to Test - sql and html File N	ligration			作成日時	December 10, 2	008			
ワークフロー:	Standard Deployment				ステータス:	進行中				
アサインされたユーザ:		優先度:	Low	~	上位:					
アサイン先グループ:		パッケージ タイプ:	Customization	~	優先度シーケンス:	50				
達威率 (%):	0									
ステータス										
明細の表示: ④ 保留	冒中の明細のみ			ステップの	0表示: ④ 自分のアク	ションを待っ ステップ				
্র ব	くての明細				○ すべてのス:	テップ	בלפערע			
表示 すべての明細				適格な	にステップの表示: 期間	Standard Deplo	yment			
シーケンス	オブジェクト名	オブジェクト タイプ		0	5: QA Test	0	0	0		
	mainpage.html	File Migration			適格					
	coud_bisinisation_bata.sqr	r iie migration							-	
すべてチェック	すべ てクリア 明即の詳細	ログの数示			すべてチェック	すべてクリア	ワークフロー アクション		-	
メモ										
保存時 に追加 されるメモ:										
		~								
		$\sim$								
,										
参照										
参照の追加										
新規参照: 添付ファイル	三直加									
保存時に追加される参照:										
	[四<	PHER								
								保存		リセット

## [パッケージ詳細]ページの[ヘッダ]セクション

パッケージの詳細ページの[**ヘッダ**] セクションには、パッケージの作成者、作成日、関連付けられているワークフローなどの一般情報が表示されます 図 2-5 に、 典型的な [**ヘッダ**] セクションを示します。

図 2-5. [パッケージ詳細] ページのヘッダセクション

৲৵ড়					
・パッケージ番号:	30030	パッケージ グループ:		作成者:	Admin User
說明:	Dev to Test - sql and html File	Migration		作成日時	December 10, 2008
ワークフロー:	Standard Deployment			ステータス:	進行中
アサインされたユーザ:	&	優先度:	Low	上位:	
アサイン先グループ:		パッケージ タイプ:	Customization 🔽	優先度シーケンス:	50
達咸率 (%):	0				

[パッケージ詳細]ページの[ステータス]セクション

[パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクションには、パッケージの現在 のステータスが表示されます。標準インタフェースでパッケージを最初に作 成した時点では、[ステータス] セクションは存在しません。パッケージを送信 すると、[ステータス] セクションにパッケージ明細と関連付けられているワー クフローのすべてのステップが表示されます。図 2-6に、[パッケージ詳細] ページの[ステータス] セクションを示します。

ステータス	
明細の表示: ④ 保留中の明細のみ	<b>ステップの表示: ④</b> 自分のアクションを待つ ステップ
○ すべての明細	O すべてのステップ リフレッシュ
表示すべての明細	適格なステップの表示:期間 Standard Deployment
シーケンス オブジェクト名 オブジェクト タイプ	O 5: QA Test O O O
1 mainpage.html File Migration	□ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
2 Load_Distribution_Data.sql File Migration	
<b>すべてチェック</b> すべてうりア 明節の詳細 ログの表示	まべてきょっか まべてかりア ワークフロー・アクション 🗐 📢 📢 🕨 🅪 🅪

#### 図 2-6. [パッケージ詳細] ページの [ステータス] セクション

### [パッケージ詳細]ページの[メモ] セクション

[パッケージ詳細] ページの [メモ] セクションには、格納するパッケージ情報 を入力するフィールドがあります。[メモ] セクションはパッケージ作成プロ セスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。

図 2-7に、典型的な [メモ] セクションを示します。すべての「メモ] セクションには、[メモの追加] サブセクションがあります。リクエストに対して最初の メモを作成すると、[既存のメモ] セクションが作成されます。

Æ	
保存時 に追加されるメモ:	
	^
	$\sim$

#### 図 2-7. [パッケージ詳細] ページの [メモ] セクション

### [パッケージ詳細]ページの[参照]セクション

[パッケージ詳細] ページの [参照] セクションには、パッケージに関する追加 情報があります。たとえば、パッケージにURLを追加したり、パッケージか ら古いドキュメントを削除したりできます。[参照] セクションはパッケージ 作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。パッケー ジに対し、参照の追加や削除が可能です。

パッケージに参照を追加するには、[参照の追加] セクションを使用します。保 存済みの参照は参照タイプ別に整理されています。たとえば、保存済みの参 照パッケージはすべて [パッケージ] セクションに保存されています。一部の 参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作 成できます。参照とその機能の依存関係の詳細については、「参照リレーショ ンシップ」(42ページ) を参照してください。 図 2-8に、[パッケージ詳細]ページの[参照]セクションを示します。

図 2-8. [パッケージ詳細] ページの [参照] セクション

参照	
参照の追加	
新規参照: 添付ファイル 🔽 🦾	
保存時に追加される参照:	

## PPM Workbenchのパッケージ

既存のパッケージを表示するには、パッケージWorkbenchを使用します。[パッケージ]ウィンドウからは、パッケージへのメモおよび参照の追加、ワークフローを通してのパッケージの処理が可能です。パッケージの作成および送信、ワークフローを通しての処理、キャンセル、削除も、[パッケージ]ウィンドウから行うことができます。図 2-9に、パッケージの詳細ページを示します。

図 2-9. [パッケージ] ウィンドウ

() 1 ()					
マリハックーン:30015					
パッケージ番号: 30015	パッケージ グノ	レープ:	作成者:	Admin User	
説明: path test		,	作成日時:	2013/04/12	12
ワークフロー: (REFERENCE)	開発->テスト->本番		パッケージ ステータス:	, 新規	
アサインされたユーザ: Admin User		先度: 低	上位:		
アサイン先グループ		ねイナ カフタマイブ 🔹	個牛 度シーケンス・	50	
· 法成本 (%) [0			(g) 432 / / ///	100	
パッケージ明細 ステータス メモ 巨参明	Q ユーザ データ	1			
シーケン オブジェクトタイプ	アプリケーション	1		2	-
1 ファイル クライアントー 2 ファイル移行	(なし)	Client File Name:	Sub-Patr	1: h: test	File Type: File Name
		-			
					Þ
¥	規明細 明細の編	課 明細のコピー 明紹	の前116余 🚺		
送信			C	)K 保存	キャンセル
準備完了					

## [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクション

[パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクションには、パッケージの作成者、作成日、関連付けられているワークフローなど、パッケージに関する 一般情報が表示されます。[パッケージ情報] セクションはパッケージ作成プロ セスで使用し、パッケージとともに保存されます。通常、パッケージを作成 するときには、このセクションでいくつかのフィールドを入力する必要があ ります。図 2-10に、典型的な一般情報セクションを示します。[パッケージ詳 細] ページの [ヘッダ] セクションにある情報は、[パッケージ] ウィンドウの 一般情報セクションに表示されます。

## 図 2-10. [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ情報] セクション

🕼 パッケージ: 30015		
「パッケージ情報		
パッケージ番号: 30015	パッケージ グループ:    ・	作成者: Admin User
IDBR   path test		作成日時: 2013/04/12 🔟
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->	テスト->本番 📃	パッケージ ステータス: 新規
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低 💌	上位:
アサイン先グループ:	パッケージ タイプ: カスタマイズ 🔹 💌	優先度シーケンス: 50
達成率(%): 0	,	
↓ パッケージ明細↓ ステータス↓ メモ↓ 店□ 参昭↓ フーナ	+ データ】	
シーケン オブジェクトタイプ アプリ	ノケーション 1	2
1 ファイル クライアント (なし)	Client File Name:	Sub Path: File Type:
2 ファイル移行 (なし)	File Location: サーバ	Sub-Path: test File Name
¥斤規8月約田	明細の編集 明細のコピー 明紀	80月17年 <b>全</b>
送信		OK 保存 キャンセル
/ 準備完了		,,

## [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明細] タブ

[パッケージ明細] タブには、パッケージに関連付けられているパッケージ明細 が表示されます。パッケージ明細により、環境間で移行するオブジェクトが 定義されます。パッケージ明細はそれぞれ1つのオブジェクト(ファイル)を 定義します。通常、オブジェクト(ファイル)は、オブジェクトタイプ([ファ イルクライアント>クライアント]、または[ファイル移行])、ファイル名、場所、 ファイルタイプによって定義されます。1つのパッケージ明細に複数のオブ ジェクトを定義することはできません。図 2-11に、パッケージ明細が表示さ れている[パッケージ明細] タブを示します。

🕼 パッケージ: 30015		_ D×
「パッケージ情報		
パッケージ番号: 30015	パッケージ グループ:	作成者: Admin User
説明: path test		作成日時: 2013/04/12 🔟
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->	テスト->本番 🔠	パッケージ ステータス: 新規
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低. ▼	上位:
アサイン告グループ: 国	パッケージタイプ: カスタマイズ 🔍	優先度シーケンス: 50
进行支付		120701307 7 977 100
) <u>)</u>		
パッケージ明細   ステータス   メモ   巨 参照   ユーサ	データ	
シーケン オブジェクトタイプ アプリ	ケーション 1	2
1 ファイルクライアント (なし)	Client File Name:	Sub Path: File Type:
2 ファイル移行 (なし)	File Location: サーバ	Sub-Path: test File Name
•		Þ
	明細の編集 明細のコピー 明細	
送信		OK 保存 キャンセル
準備完了		

図 2-11. [パッケージ] ウィンドウの [パッケージ明細] タブ

## [パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ

[パッケージ] ウィンドウの [**ステータス**] タブには、パッケージの現在のステー タスが表示されます。パッケージを最初に作成した時点で、[**ステータス**] タブ にパッケージ明細が表示されています。パッケージを保存または送信すると、 [**ステータス**] タブにパッケージ明細と関連付けられているワークフローのす べてのステップが表示されます。

[ステータス] タブでは、次のものを表示できます。

- パッケージに対して実行可能なすべてのアクション
- 現在までに実行したすべてのアクション
- パッケージを解決するために実行する必要がある保留中のアクション

パッケージを送信した後、[ステータス] タブを使って、ワークフローを通して 処理できます。各パッケージ明細には、ワークフローのすべてのステップが 含まれています。ワークフローステップがアクションに対して適格な場合、そ のステップの [テスト環境への変更の移行] フィールドに「適格」という値が表 示されます (図 2-12)。

🕼 パッケージ: 30015	5						_ 🗆 ×
「パッケージ情報―							
パッケージ番号:	30015	パッケージ グループ:			1	作成者: Admin User	
	path test				<u> የፑ</u>	成日時: 2013/04/12	12
ワークフロー・	(REFERENCE) 開発->=	テスト->本番		■	パッケージ ス	テータス: 進行中	
アサインされたユーザ:	Admin User	優先度:	低	•		上位:	
アサイン先グループ:		パッケージ タイプ:	カスタマイズ	-	優先度シ	ーケンス: 50	
達成率 (%):	0		,	_			
パッケージ明細 ステー	奴  回 メモ   回 参照  ユ	-ザ データ】					
シーケン オブジェ	:ク オブジェクトター	(ブ   テスト環境	1 身への変更の移行	= 7	2 トの変更	3 品質評価待ち	
1	ファイル クライアン	下 適格			1 07562		
2 test	ファイル移行	適格					
		•					►
<u>リフレッシュ</u> 送信 準備完了	サベてを選択 + すべて	<u> </u>	> 明細実行「 明細実行」 パッケーシ グラフィッ	コグ (最新) コグ (最新) ジ実行履歴 ック ビュー		複数ステップ       OK     保存	キャンセル
			明細の権利 明細トラン 決定の詳純 情報 URL	艮 /ザクショ 冊	ン履歴		

図 2-12. [パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブ

パッケージを送信した後、パッケージ明細を展開して、ワークフローに定義 されているサブワークフローステップを表示できます。サブワークフロース テップを表示するには、[**展開する**]をクリックします。

[ステータス] タブですべてのサブワークフローステップを展開するには、[す べて展開する] をクリックします。サブワークフローステップを非表示にする には、[折りたたむ] をクリックします。すべてのサブワークフローステップを 非表示にするには、[すべて折りたたむ] をクリックします。[展開する] をクリッ クすると、パッケージ明細が横方向に展開され、そのサブワークフロー内の すべてのステップが表示されます。

サブワークフローステップのヘッダテキストは、ワークフローステップの ヘッダとは異なる色で表示されます。ステップ番号には、ワークフローのレ ベルを示す小数位が付いています。たとえば、最上位レベルのワークフロー のステップ3がサブワークフローである場合、そのステップの番号は3.1、3.2、 3.3のようになります。同様に、そのサブワークフローの下位のステップもサ ブワークフローステップである場合は、そのステップの番号は3.2.1、3.2.2、 3.2.3のようになります。

[ステータス] タブからは、数種類のログファイル、ワークフローのグラフィッ クビュー、トランザクション履歴、パッケージに関する詳細ファイルにアク セスできます。パッケージの処理には、これらのファイル、ビュー、履歴が 役立ちます。

#### 明細実行ログへのアクセス

パッケージ明細を選択し、明細実行ログを表示することで、特定の明細の実 行に関する詳細を取得できます。表示する明細は、実行バッチログ全体の一 部です。

パッケージ明細が環境グループを使って複数の環境に移行するように設定されている場合、実行ログからは実行サマリと送り先の各環境のリンクが返されます。環境の詳細な実行ログを表示するには、関連リンクをクリックします。
#### パッケージ実行履歴へのアクセス

パッケージ実行履歴には、各パッケージ明細の実行履歴が表示されます。各 実行ステップのワークフローステップの名前、実行日、結果([**正常に終了**]または[**失敗**])が表示されます。

パッケージ明細が環境グループを使って複数の環境に移行するように設定さ れている場合、実行ログからは実行サマリと送り先の各環境のリンクが返さ れます。リンクをクリックすると、各環境の詳細な実行ログを取得できます。

#### グラフィックビュー

ワークフローを表示するには、[グラフィックビュー]ウィンドウ(38ページ の図 2-13)を選択します。実行済みのワークフローステップやアクティブなス テップを確認するには、ウィンドウ上部の凡例を使用します。この画像には、 ワークフロー定義で使用されているすべてのワークフローステップおよびサ ブワークフローが表示されています。

特定のワークフローのグラフィックビューを取得するには、ウィンドウ下部の[サブワークフローステップの表示]リストからサブワークフロー名を選択します。新しいウィンドウが開き、そのサブワークフローのグラフィックビューが表示されます。

#### 図 2-13. パッケージの [グラフィックビュー] ウィンドウ



#### 明細の権限の表示

ワークフローの権限は、初期のワークフローの設定時に決定されます。[明細の権限]ビューには、関連するワークフローステップで有効なセキュリティグループのすべてのユーザが表示されます。特定のワークフローステップに設定されている権限について不明な点がある場合は、アプリケーション管理者に問い合わせてください。

#### 明細のトランザクション履歴の表示

各パッケージ明細のトランザクション履歴を表示できます。トランザクショ ン履歴から、HP Deployment Managementのワークフローを通してパッケージ 明細がどのように処理されたかを詳細に確認できます。トランザクションイ ベントの日付、ワークフローステップにリンクしたユーザ、ワークフロース テップの名前と番号、ステータス、結果などの情報が表示されます。

単一のパッケージ明細によって1回以上実行されたサブワークフローステップの情報を表示するには、[完全トランザクション履歴]を選択します。

[現在のトランザクションステータス]を選択すると、そのステップまでの最新の トランザクションの情報のみが表示されます。

#### 決定の詳細の表示

決定の詳細には、各ワークフローステップの意思決定履歴が表示されます。表示されるのは、意思決定ワークフローステップの日付、リソース、意思決定 です。

#### ワークフローステップ情報のURLの表示

ワークフローステップを設定するとき、ワークフローステップに関する情報 を提供するURLを含めることができます。管理者が情報のURLをワークフ ローステップにリンクした場合、ワークフローステップ情報のURLウィンド ウでURLを表示できます。

### [パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ

[パッケージ]ウィンドウの [メモ] タブ (図 2-14) には、パッケージに関するメ モや情報を入力して保存できるフィールドがあります。[メモ] セクションは パッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在しま す。通常、パッケージの作成時には、パッケージにメモを追加する必要はあ りません。

∅ パッケージ: 30015							
「バッケージ情報							
パッケージ番号: 30015	パッケージ グループ:		作成者: Admin User				
説明: path test			作成日時 2013/04/12 🔟				
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->-	テスト->本番		パッケージ ステータス: 進行中				
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低	•	上位:				
アサイン先グループ:	パッケージ タイプ・カスタマイズ	•	優先度シーケンス: 50				
達成率 (%): 0							
パッケージ明細 ステータス 巨 メモ 巨 参照 1 ユ	ーザ データ						
既存のメモ	▲ 新規メモ						
既存のメモ         新規メモ							
	最大化						
送信			OK 保存 キャンセル				
準備完了							

#### 図 2-14. [パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ

### [パッケージ] ウィンドウの [参照] タブ

[パッケージ詳細] ページの [参照] タブ (図 2-15) には、パッケージに関する追加情報が表示されます。たとえば、パッケージにURLを追加したり、パッケージから古いドキュメントを削除したりできます。[参照] タブはパッケージ作成プロセスで使用し、パッケージがクローズするまで存在します。パッケージに対し、参照の追加や削除が可能です。

パッケージに参照を追加するには、[参照の追加] セクションを使用します。保 存済みの参照は参照タイプ別に整理されています。たとえば、保存済みの参 照パッケージはすべて [パッケージ] セクションに保存されています。一部の 参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作 成できます。参照とその機能の依存関係の詳細については、「参照リレーショ ンシップ」を参照してください。

🕼 パッケージ: 30015	×
「パッケージ情報	
パッケージ番号: 30015 パッケージ グループ: 🔲	作成者: Admin User
説明: path test	作成日時: 2013/04/12 🔟
<mark>ワークフロー</mark> : (REFERENCE) 開発->テスト->本番	パッケージ ステータス: 進行中
アサインされたユーザ: Admin User 🔠 優先度: 低 💌	上位:
アサイン先グループ:   アサイン先グループ:   アサイン・ガンタイプ:  カスタマイズ	優先度シーケンス: 50
達成率 (%): 0	
・ パッケージ明細 ステータス 「E」メモ 「三 参照 】 ユーザ データ	
タイプ 名前 詳細 ステータ 達成率(%)	説明  リレーション リレーションシッ ユーザ
バッケージ 30016 (REFERENCE) 開発->テスト->本番 新規 0%	コピ このバッケー 情報: バッケージ 3 Admin.
太宇で表示されている 項目 は、この パッケージ をアクティブに制御しています	
新規参照 パッケージ (既存) 💌 <u>道加</u> 周期除	参照を開く
送信	OK 保存 キャンセル

#### 図 2-15. [パッケージ] ウィンドウの [参照] タブ

# 参照リレーションシップ

一部の参照では、パッケージと参照されたエンティティの間で機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。

- 先行タスクリレーションシップ:先行タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズするまで、特定のエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、参照されたタスクをクローズ(完了済み、回避済み、キャンセル)するまで、パッケージはワークフローアクションを完了できません。パッケージのステータスは保留中のタスクです。タスクがクローズすると、パッケージをさらに操作できるようになります。このリレーションシップによって、ほかのリクエストフィールドが編集できなくなるわけではありません。
- 後続タスクリレーションシップ:後続タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズするまで、そのエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、元のパッケージがクローズするまで、参照されたタスクのステータスを変更できません。タスクのステータスは保留中のリクエストです。パッケージがクローズすると、再びタスクを変更できるようになります。このリレーションシップによって、ほかのタスクフィールドが編集できなくなるわけではありません。

43ページの表 2-1に、参照とその定義、可能な依存リレーションシップを示します。

表	2-1.	参照。	とり	$\nu -$	ショ	レシ	ップ	゚(1/4ペ	ージ)	

乽	€照	参照の 説明	可能な リレーション シップ	リレーションシップ の説明
溕	オファイル	ローカルマシンのファイルを 現在のパッケージに添付しま す。添付ファイルはサーバに コピーされます。	標準の添付処理	(情報) 添付ファイルは このパッケージに関連 付けられています。
			このパッケージ 関連	(情報)選択したパッケー ジはこのパッケージに 関連付けられています。
			リリースのこの パッケージの前に 実行してください	(情報)参照されたパッ ケージをこのパッケー ジの前に実行する必要 があります。(両者がリ リースにある場合)
/` (1	ペッケージ 既存)	既存のパッケージを参照し ます。	リリースのこの パッケージの後に 実行してください	(情報)参照されたパッ ケージをこのパッケー ジの後に実行する必要 があります。(両者がリ リースにある場合)
( 6417 )	,		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージ がクローズするまで、 パッケージに対するア クションは実行できま せん。
		後続タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージ がクローズするまで、そ のパッケージに対する アクションは実行でき ません。	

表 2-1.参照とリレーションシップ(2/4ページ)

参照	参照の 説明	可能な リレーション シップ	リレーションシップ の説明
		リリースのこの パッケージの前に 実行してください	(情報) リリースにおい て、選択したパッケージ をこのパッケージの前 に実行する必要があり ます。
	パッケージから新しいパッ ケージを作成することもでき ます。 ワークフローの一部として設	リリースのこの パッケージの後に 実行してください	(情報) リリースにおい て、選択したパッケージ をこのパッケージの後 に実行する必要があり ます。
パッケージ (新規)	定されている場合は、ワークフ ローステップからパッケージ を作成できます。この場合、そ のパッケージへの参照が自動 的に生成され、パッケージ間で 双方向リンクが確立されます。	先行タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージ がクローズするまで、 パッケージに対するア クションは実行できま せん。
		後続タスク	(ブロックしています) 参照されたパッケージ がクローズするまで、そ のパッケージに対する アクションは実行でき ません。
プログラム	HP Program Managementの プログラムを参照します。	このプログラム 関連	(情報) 選択したプログラ ムはこのパッケージに 関連付けられています。
プロジェクト	HP Project Managementのプ ロジェクトを参照します。	このパッケージ 関連	(情報) 選択したプロ ジェクトはこのパッ ケージに関連付けられ ています。
リリース	HP Deployment Management のリリースを参照します。	このパッケージを 含みます	(情報) パッケージは選 択したリリースに含ま れています。

参照	参照の 説明	可能な リレーション シップ	リレーションシップ の説明
		このパッケージの 上位	(情報)参照されたリク エストはパッケージの 上位です。
リクエスト (既存)	既存のリクエストを参照し ます。	このパッケージ 関連	(情報)参照されたリク エストはこのパッケー ジに関連付けられてい ます。
		先行タスク	(ブロックしています) 参照されたリクエスト がクローズするまで、こ のパッケージに対する アクションは実行でき ません。
		後続タスク	(ブロックしています) このパッケージがク ローズするまで、参照さ れたリクエストに対す るアクションは実行で きません。

表 2-1. 参照とリレーションシップ(3/4ページ)

表 2-1. 参照とリレーションシップ(4/4ページ)

参照	参照の 説明	可能な リレーション シップ	リレーションシップ の説明
		このパッケージの 上位	(情報) 参照されたリク エストはパッケージの 上位です。
リクエスト (新規)	既存のパッケージから新しい パッケージを作成できます。	このパッケージ 関連	(情報) 参照されたリク エストはこのパッケー ジに関連付けられてい ます。
	また、ワークフローの一部とし て設定されている場合は、パッ ケージからパッケージを作成 できます。この場合、そのパッ ケージへの参照が自動的に生 成され、パッケージ間で双方向	先行タスク	(ブロックしています) 参照されたリクエスト がクローズするまで、こ のパッケージに対する アクションは実行でき ません。
	リンクが唯立されます。	後続タスク	(ブロックしています) このパッケージがク ローズするまで、参照さ れたリクエストに対す るアクションは実行で きません。
タスク	HP Project Managementのタ スクを参照します。	このパッケージ 関連	(情報) 参照されたタス クはこのパッケージに 関連付けられています。
URL	Webアドレスを参照します。 URLで示されるドキュメント はMIME形式である必要があ ります。	標準のURL処理	(情報) URL はこのパッ ケージに関連付けられ ています。

### 先行タスクリレーションシップ

先行タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズす るまで、特定のエンティティに対してアクションを実行できません。たとえ ば、参照されたタスクがクローズ(完了済み、回避済み、キャンセル)するまで、 パッケージはワークフローアクションを完了できません。パッケージのス テータスは保留中のタスクです。参照されたタスクがクローズすると、再びパッ ケージを操作できるようになります。このリレーションシップによって、ほ かのリクエストフィールドが編集できなくなるわけではありません。

#### 後続タスクリレーションシップ

後続タスクリレーションシップでは、参照されたエンティティがクローズす るまで、そのエンティティに対してアクションを実行できません。たとえば、 元のパッケージがクローズするまで、参照されたタスクのステータスを変更 できません。タスクのステータスは**保留中のリクエスト**です。パッケージがク ローズすると、再びタスクを操作できるようになります。このリレーション シップによって、ほかのタスクフィールドが編集できなくなるわけではあり ません。

# 第3章 パッケージの作成

# パッケージ作成の概要

この章では、ソフトウェアおよびアプリケーションの変更をデプロイするためのパッケージの作成方法および送信方法について説明します。通常、パッケージの作成にはPPM Workbenchを使用しますが、既存のパッケージをコピーしたり、参照されたエンティティとしてパッケージを作成したりすることもできます。

パッケージを作成した後、送信してワークフロー (ビジネスプロセス)を開始 する必要があります。パッケージを送信する方法については、「パッケージの 送信」(88ページ)を参照してください。

### パッケージを作成する前に

パッケージを作成する前に、次のものを理解する必要があります。

- **ワークフロー**: ワークフロー Workbench で定義されています。
- 環境:ワークフローステップで指定され、環境Workbenchで定義されています。
- **オブジェクトタイプ:**オブジェクトタイプWorkbenchで定義されています。

#### ワークフローの選択

各パッケージは、あらかじめ定義されたワークフローを通して処理されます。 作成する各パッケージに適用するワークフローを選択する必要があります。 適切なビジネスプロセスを正確にモデル化するワークフローを通して、パッ ケージをルーティングすることが重要です。

HP Deployment Management ワークフローのグラフィカルレイアウトを表示するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbench が起動します。
- 3. ショートカットバーから、[構成]>[ワークフロー]を選択します。

[ワークフロー Workbench] ウィンドウが開きます。

すべてのワークフローを表示するには、ワークフロー Workbench で [リスト]をクリックします。

検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。

[結果] タブに、すべてのワークフローレコードが一覧表示されます。

5. [**ワークフロースコープ**]列に「**パッケージ**」と表示されたワークフローを選 択し、[**開く**]をクリックします。

ワークフロー:<ワークフロー名>ウィンドウで、[**レイアウト**]タブが開き、ワークフローステップがグラフィック表示されます。



ワークフローがパッケージに適切なビジネスプロセスに従っていること を確認します。従っていない場合、別のワークフローを開きます。

6. 移行ワークフローステップを右クリックして [編集...]をクリックします。 [テストに移行]または [本番に移行] ワークフローステップなどです。

そのステップの[ワークフローステップ]ウインドウで[**プロパティ**]タブ が表示されます。 7. タブに表示されている送り元環境および送り先環境が正しいことを確認します。

🕼 ワークフロー ステップ	×
プロバティ セキュリ	ティ 職務分掌 通知 タイムアウト ユーザ データ 結果 表示設定…
ステップ番号:	1
ステップ名:	テスト環境への変更の移行
アクション サマリ:	
ソース タイプ:	意思決定
リース名:	コピー(1) デモ アプリケーションの移行
有効:	© はい C いいえ
表示:	常に 🗾
ワークフロー パラメータ:	なし 💌
平均リード時間:	
プロジェクト ステータス:	E
現在の達成率(%):	
上位アサイン先ユーザ:	L.
上位アサイン先グループ:	I
ワークフロー ステップ情報:	
必要な認証	なし 💌
	OK 適用 キャンセル
準備完了	

- 8. [ワークフローステップ] ウィンドウでその他の情報を表示するには、次の タブをクリックします。
  - セキュリティ: 選択したステップに対して使用できるセキュリティグループを定義するために使用します。有効になっているセキュリティグループはすべて利用可能なセキュリティグループフィールドまたはリンクされたセキュリティグループフィールドに表示されます。リンクされたセキュリティグループに属する各ユーザは、その特定のワークフローステップに定義されているアクションを実行できます。
  - 職務分掌:ワークフローの選択したステップから分掌するワークフロー ステップを指定するために使用します。この分掌により、特定のユー ザがワークフローで両方のステップを実行できないようになります。 たとえば、変更をリクエストするユーザが第三者の承認を得ることな く、本番システムにその変更をデプロイできないようにすることがで きます。

また、このタブを使って、パッケージ作成者が選択したワークフロー ステップを実行できないように指定することもできます。

- 通知:ワークフローステップに電子メール通知を添付するために使用します。電子メールメッセージは、ステップで特定のイベントが発生した(例:ステップが特定の結果で完了した)場合に送信できます。
- タイムアウト:このタブには、このワークフローステップに設定されているタイムアウト間隔が表示されます。
- ユーザデータ:このタブには、各ワークフローステップにのカスタム フィールドが表示されます。
- 結果:このタブには、ステップに対して発生し得る有効な結果がすべて 一覧表示されます。
- 9. [ワークフローステップ] ウィンドウを閉じます。

#### 環境の確認

ワークフローステップによっては、送り元環境と送り先環境を指定すること があります。指定した環境が正しいかどうかわからない場合、環境Workbench でそれらの環境を開いてみることができます。

環境にアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbenchが起動します。
- ショートカットバーから、[環境]>[環境]を選択します。
   環境Workbenchが開きます。
- すべての環境を表示するには、[リスト]をクリックします。 検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。
   [結果]タブに、すべての環境レコードが一覧表示されます。
- 5. 表示されている中から1つ以上の環境を選択し、[**開く**]をクリックします。 環境: **<環境名**>ウィンドウが開きます。
- 6. サーバ、クライアント、データベースの設定を確認します。
- 7. [環境] ウィンドウを閉じます。

#### オブジェクトタイプの確認

パッケージを作成するとき、オートコンプリートリストに利用可能なオブ ジェクトタイプが表示されます。パッケージの作成を始める前に利用可能な オブジェクトタイプを表示するには、オブジェクトタイプ Workbench でオブ ジェクトタイプを開きます。表 3-1に、HP-が用意しているオブジェクトタイ プを示します。

HP Deployment Managementの機能拡張では、オブジェクトタイプが追加されています。

オブジェクトタイプ	説明
ファイルクライアント > クラ イアント	クライアント間でファイルをコピーします。
ファイル移行	環境間でファイルをコピーします。
PPM データソース マイグレータ	PPM Centerのデータソースマイグレータを移行します。
PPMモジュールマイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのモジュールを移行します。
PPMオブジェクトタイプ マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのオブジェクトタイプを 移行します。
PPM 概要ページセクション マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerの概要ページを移行します。
PPMポートレット定義 マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのポートレット定義を移 行します。
PPM プロジェクトタイプ マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのプロジェクトタイプを 移行します。
PPM レポートタイプ マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのレポートタイプを移行 します。
PPMリクエストヘッダタイプ マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerのリクエストヘッダタイ プを移行します。

表 3-1. オブジェクトタイプ(1/2ページ)

表 3-1. オブジェクトタイプ(2/2ページ)

オブジェクトタイプ	説明
PPM リクエストタイプ マイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のリクエストタイプを移 行します。
PPM特殊コマンド マイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center の特殊コマンドを移行し ます。
PPMユーザデータコンテキス トマイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のユーザデータコンテキ ストを移行します。
PPM検証マイグレータ	PPM Center環境間でPPM Centerの検証を移行します。
PPM ワークフロー マイグレータ	PPM Center 環境間で PPM Center のワークフローを移行し ます。
OS/390 JCL移行	送り元環境から送り先環境にOS/390 JCLを移行します。
PVCSファイル移行	PVCSアーカイブから送り先環境にオブジェクトを移行し ます。
RCSファイル移行	このオブジェクトは、RCS のコードのチェックアウトと配 布を管理します。
RCSサーバファイル	古いファイルは送り先環境でチェックインされます。新しい ファイルは送り先環境でチェックインされ、読み取り専用で チェックアウトされます。
SourceSafeファイル移行	SourceSafe バージョン制御アーカイブからのファイルの チェックアウトと昇格を管理します。

#### オブジェクトタイプの表示

オブジェクトタイプを開くには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

ショートカットバーから、[Deployment Management] > [オブジェクトタイプ] を選択します。

[オブジェクトタイプWorkbench] ウィンドウで [**クエリ**] タブが表示されます。

- すべてのオブジェクトタイプを表示するには、[リスト]をクリックします。
   検索を絞り込むには、1つ以上のクエリパラメータを指定します。
- 5. 表示されている中から1つ以上のオブジェククトタイプを選択し、[**開く**] をクリックします。

オブジェクトタイプ:<オブジェクトタイプ名>ウィンドウが開きます。

- 6. [**コマンド**] タブをクリックします。
- 7. オブジェクトタイプで呼び出されるコマンドを確認します。
- 8. オブジェクトタイプ: <オブジェクトタイプ名>ウィンドウを閉じます。

# パッケージの作成

通常、パッケージの作成にはPPM Workbenchを使用しますが、既存のパッケージをコピーしたり、参照されたエンティティとして新しいパッケージを作成したりすることもできます。このセクションでは、3とおりの方法すべてについて説明します。

#### PPM Workbenchを使ったパッケージの作成

パッケージは、ソフトウェアやアプリケーションの変更をデプロイするため に使用します。このセクションでは、パッケージ明細の追加や適切なデプロ イワークフローの指定など、パッケージの内容の定義方法について説明しま す。ソフトウェアの移行を実行するたびに、新しいパッケージを作成する必 要があります。

PPM Workbenchからパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [新規パッケージ] をクリックします。

[パッケージ] ウィンドウが開きます。

Øバッケー	ジ: 30015									I	<u>_   ×</u>
「バッケージ	情報										
パッケ	ージ番号: 3	30015	1	ペッケージ グル	レープ:			作成者:	Admin User		
	≣党8月: p	oath test					f	乍成日時:	2013/04/12		17
, D	l-b70-: (	REFERENCE)	開発->テス	. ト->本番		II	パッケージ	ステータス:	新規		
アサインされ	いたユーザ: 🗖	Admin User	*	優	先度: 低	-		上位:			
   アサイン/学	 = グループ: []			18-14-57	yイプ: カフタマイプ	-	<b>優牛度</b> ?	シーケンス:	50		
	ettate (40) [0	<b>`</b>		100 0	and brack in		1927 6450		100		
	50X++ (70)- JU	,									
パッケージ明線	細 ステータ)	ス  メモ  回 参照	ユーザデ	-9							
シーケン	オブジョ	ェクトタイプ	アプリケ	ーション	1				2		
1	ファイルク	7ライアント	(なし)		Client File Name:			Sub Path	1:	Fi	le Type:
2	ファイル移	ΪŢ	(なし)		File Location: サーハ			Sub-Patr	n: test	FI	le Name
											<u> </u>
		新規	明細	明細の編	集 明細のコピー	明細	の削除	<b>↑</b>			
送信								C	K 保存	++	ンセル
準備完了											

5. [パッケージ情報] セクションで、各フィールドに情報を入力します。

このセクションの各フィールドの入力方法については、「パッケージの一般情報の入力」(65ページ)を参照してください。

6. [パッケージ明細] タブで、パッケージにパッケージ明細を追加します。

パッケージ明細には、環境間で移行する各オブジェクトに関する情報が含 まれています。パッケージ明細を追加する方法については、「パッケージ への明細の追加」(66ページ)を参照してください。

7. [メモ] タブで、パッケージにメモを追加します。

メモを追加する方法については、「パッケージへのメモの追加」(70ページ) を参照してください。 8. [参照] タブで、パッケージに参照を追加します。

参照を追加する方法については、「パッケージ Workbench からのパッケージへの参照の追加」(71ページ)を参照してください。

 パッケージを保存して [パッケージ] ウィンドウを閉じるには、[OK] をク リックします。[パッケージ] ウィンドウを開いたままパッケージを保存す るには、[保存] をクリックします。

### 既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成

既存のパッケージ(新規または保存済み)をコピーして、新しいパッケージを 作成することができます。既存のパッケージのどのセクションを新しいパッ ケージに含めるかを指定できます。

既存のパッケージからパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbenchが起動します。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [**クエリ**] タブで、[**リスト**] をクリックします。

パッケージWorkbenchの[結果]タブに、すべての既存のパッケージが一覧 表示されます。 5. [結果] タブでパッケージを選択し、[コピー] をクリックします。

[パッケージのコピー]ウィンドウで[**オプション**]タブが表示されます。 表 3-2に、このタブで利用できるオプションを示します。

$\phi_{R}$	ッケージ Workt	bench							
3	パッケージ	説明	ワークフロー		パッケージ グ	バッケージステ	優先月		
7 H	30017	ゆ パッケー	ジのコピー						×
∎¥	30016	- コピーさ	れたパッケージ情報						
推		ヘッダの	コピー元: 30015	▼ ‡	所規バッケージ番号	<b>;</b> 30019			
	4		説明: コピー ~ 30	015					
		- <del>7</del> -	クフロー: (REFEREN	CE) 開発	->テスト->本番				
	「コピー"ユーザ(;	オブション	ン   詳細						
, .		)	『ッケージ明細をコピー	⊙ itu	○ いいえ	ヘッダの	ノートをコピー	⊖ itu	○ いいえ
		- DD	コーズした明細をコピー	⊙ itu	○いいえ	ヘッダのユーザ	データをコピー	⊙ itu	○ いいえ
		++2	<b>νセルした明細をコピー</b>	O Itu	⊂いいえ	新規パ	ッケージを送信	C Itu	C いいえ
								ОК	キャンセル
		読み込みか	完了しました。						

6. 新しいパッケージに含めるセクションを選択し、[**詳細**] タブをクリックします。

(のパッケージのコピー							[
コピーされたバッケー	・ジ情報						
ヘッダのコピー元: 3	30015	💌 新規バック	⊤ージ番号: 300	19			
	コピー〜	30015					
ワークフロー: [	REFERE	NCE) 開発->テスト	->本番				<b></b>
オブション 詳細							
コピーするパッケージ	28月8日						
Pkg No / Seq	<b>含む</b>	オブジェクトタ	オブジェク	オブジェクト リビ	ステータス	アプリケ	ーション…
30015 - 1	はい	ファイル クライ…			開く	(なし)	
30015 - 2	はい	ファイル移行	test		開く	(なし)	
		含める	含めない	□ バラメータを表示			
						ок	キャンセル
読み込みが完了しまし	t.,						

[詳細] タブに、元のパッケージからコピーしたパッケージ明細がすべて表示されます。デフォルトでは、これらの明細すべてが新しいパッケージに含まれます。

- 7. 表示されているパッケージ明細を新しいパッケージから除外するには、次 の手順を実行します。
  - a. [コピーするパッケージ明細] テーブルで、明細を選択します。
  - b. タブの下部で [含めない] をクリックします。

[パッケージ] ウィンドウが開き、コピーしたパッケージから選択した 情報が表示されます。

- 8. 表示されているパッケージ明細に関するパラメータを表示するには、次の 手順を実行します。
  - a. [コピーするパッケージ明細] テーブルで、明細を選択します。
  - b. タブの下部で [パラメータを表示] チェックボックスを選択します。

[**コピーするパッケージ明細**] テーブルのほかの列に、パッケージ明細パ ラメータが表示されます。

c. すべてのパラメータを表示するには、水平スクロールバーを使用します。

9. [OK] をクリックします。

オプション	説明
パッケージ明細をコピー	既存のパッケージのすべてのパッケージ明細 ([ク ローズ済み]または [キャンセル] 以外のステータス) を新しいパッケージにコピーします。デフォルトは [ <b>はい</b> ]です。
クローズした明細をコピー	既存のパッケージのすべてのクローズ済みパッケー ジ明細を新しいパッケージにコピーします。デフォ ルトは [ <b>はい</b> ] です。
キャンセルした明細を コピー	既存のパッケージのすべてのキャンセルしたパッ ケージ明細を新しいパッケージにコピーします。デ フォルトは [ <b>いいえ</b> ] です。

表 3-2. [パッケージのコピー]のオプション(1/2ページ)

表 3-2. [パッケージのコピー]のオプション(2/2ページ)

オプション	説明
ヘッダのノートをコピー	既存のパッケージに添付されているすべてのメモを 新しいパッケージにコピーします。デフォルトは [ <b>い</b> <b>いえ</b> ] です。
ヘッダのユーザデータを コピー	該当する場合、既存のパッケージのユーザデータを 新しいパッケージにコピーします。
新規パッケージを送信	パッケージをコピーした後、パッケージを送信しま す。デフォルトは[ <b>いいえ</b> ]です。[ <b>いいえ</b> ]を選択す ると、パッケージは送信されません。パッケージを 送信するには、コピーしたパッケージを開いて[送信] をクリックする必要があります。

パッケージからの参照としてのパッケージの作成

リクエストや別のパッケージなどのエンティティを参照するものとして、新 しいパッケージを作成することができます。

既存のパッケージへの参照として新しいパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchで[**クエリ**] タブが表示されます。

4. 利用できるフィールドを使って検索条件を入力し、[**リスト**]をクリックします。

[結果] タブに、検索条件に一致するパッケージが一覧表示されます。

5. 開くパッケージの列をダブルクリックします。

[パッケージ] ウィンドウが開きます。

6. [参照] タブをクリックします。

7. タブの下部にある [新規参照] リストから [パッケージ(新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照-パッケージ(新規)] ウィンドウが開きます。

(4) 新規参照 - パッケージ (新規)
選択した パッケージ の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:
● このパッケージ関連 - (情報) - 選択したパッケージはパッケージ 30015 (2関連付付られています
○ リリースのこのパッケージの後に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の後に実行する必要がありま
○ リリースのこのパッケージの前に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の前に実行する必要がありま
○ 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、パッケージ 30015 に対するアクションは実行できません
◯ 〇 後続タスク - (ブロックされました) - パッケージ 30015 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません
()
作成 キャンセル
準備完了

8. [**選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシッ プを選択**]で、新しいパッケージと既存のパッケージのリレーションシッ プを示すオプションを選択し、[作成]をクリックします。

新しい[パッケージ]ウィンドウが開きます。

参照されたエンティティ間で可能なリレーションシップの説明について は、43ページの表 2-1を参照してください。

- 9. 新しいパッケージに関する必須情報とオプション情報を入力して、[OK] または[保存]をクリックします。
- 10. 元のパッケージが表示されている [パッケージ] ウィンドウで、[**OK**] をク リックします。

#### リクエストからの参照としてのパッケージの作成

リクエストからの参照としてパッケージを作成することができます。リクエ ストからパッケージを作成する場合、適切な権限を持っていても、PPM Workbenchは開きません。[新規パッケージの作成]ページと [Newパッケージ] ページを使って、標準インタフェースで作業します。リクエストからの参照 としてパッケージを作成する場合、パッケージ明細は追加できません。つま り、パッケージを完成させて送信することはできません。パッケージにパッ ケージ明細を追加し、送信するには、パッケージWorkbenchを使用する必要が あります。

リクエストからの参照としてパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く] > [Demand Management] > [リクエストの検索] を 選択します。
- 3. リクエストを検索して開きます。

既存のリクエストを開いたり、メニューバーから新しいリクエストを作成 したりすることも可能です。既存のリクエストを開く方法やリクエストを 作成する方法については、『HP Demand Managementユーザーガイド』を参 照してください。

リクエストの詳細ページが開きます。

- 4. リクエストの詳細ページで、[参照] セクションにスクロールします。
- 5. [新規参照] リストから [パッケージ (新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規パッケージの作成]ページが開きます。

#### Project and Portfolio Management Center

新規バッケージの作成

リレーションシップ:

○先行タスク - (ブロックしてします) - 選択したパッケージをクローズするまで、リクエスト 33696 に対するアクションは実行できません

○後続タスク - (プロックされました) - リクエスト 33696 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません



<sup>○</sup>このリクエストの下位 - (情報) - 選択したバッケージはリクエスト 33696 の下位です

<sup>◉</sup> このリクエスト関連 - (情報) - 選択したバッケージはリクエスト 33696 に関連付けられています

6. リレーションシップを選択し、[作成]をクリックします。

[新規パッケージの作成]ページが開きます。

- 7. リストからワークフローを選択します。
- 8. [メモ] タブでレコードに含めるオプションの情報を入力し、[保存] をク リックします。
- 9. リクエストの詳細ページで、[保存]をクリックします。

### パッケージの一般情報の入力

パッケージの一般情報セクションを入力するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbenchが起動します。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [**クエリ**] タブで、[新規パッケージ] をクリックします。

[パッケージ]ウィンドウが開きます。[パッケージ]ウィンドウを使って、 パッケージの内容を定義します。パッケージ番号は自動的に割り当てられ ます。

- 5. 必須フィールドを入力します。
- 6. オートコンプリートリストからワークフローを選択します。
- パッケージ]ウィンドウで、[OK] または [保存] をクリックします。
   パッケージ明細がパッケージに追加されます。

# パッケージへの明細の追加

パッケージ明細により、環境間で移行するオブジェクトが定義されます。パッ ケージ明細はそれぞれ1つのオブジェクト(多くの場合はファイル)を定義し ます。通常、オブジェクト(ファイル)は、オブジェクトタイプ([ファイルク ライアント]>[クライアント]、または[ファイル移行])、名前、場所、(ファイル の場合は)ファイルタイプによって定義されます。

パッケージに明細を追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

3. ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- パッケージを開くか、新しいパッケージを作成します。
   [パッケージ] ウィンドウが開きます。
- 5. [新規明細] をクリックします。

[行の追加] ウィンドウが開きます。

6. [**オブジェクトタイプ**] フィールドでオートコンプリートアイコンを使って、 移行するオブジェクト(ファイル)のオブジェクトタイプを選択します。

オブジェクトタイプを選択すると、[行の追加] ウィンドウのフィールドが 動的に更新されます。

🐠 パッケージ: 30015			_ <b>_</b>
「パッケージ情報	「行の追け	1	×
パッケージ番号: 30015 パッケー	ジグルー オブジェー	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	
説明: path test	7 732 -	クトタイナ	
<b>ワークフロー</b> (REFERENCE) 開発->テスト->	本番	シーケンス・3 アポル	ケーション コード なし マ
アサインされたユーザ: Admin User	優先』	())) ())))()))	×
アサイノ告グループ: 国 パッ	トージタイ   ハラメー:		
達成率(%) 0		オブジェクトタイプ(前方一致):	検索
////////////////////////////////////	2]		1 01 / 01 + = -
シーケン オブジェクト タイプ アプリケーシ	ョン		1 - 21 / 21 2032035
1 ファイル クライアント (なし)	Cli	オブジェクト タイプ	拡張名 オブジェクト
2 (740)	1-m	OS/390 JCL Migration	標準オブジェ… 🚺
		PPM Data Source Migrator	標準オブジェ F
		PPM Module Migrator	標準オブジェ… F
		PPM Object Type Migrator	標準オフシェト
		PPM Overview Page Secti	標準イフンエ… ト
		PPM Poniet Deminion Migrator	. 標準イブンエ「 便准オゴの」
		PPM Report Type Migrator	原キオブシェニー「 一種准オゴシシュード
		PPM Request Header Typ	標準オブジェート
		PPM Request Type Migrator	檀準オブジェ… F
¥6498849 88	細小矩堆	PPM Special Command M.,	標準オブジェ… F
#7179C*73600	PULS / INHERS	PPM User Data Context Mi	. 標準オブジェ F
· 送(合		PPM Validation Migrator	標準オブジェ F
		PPM Workflow Migrator	標準オブジェ… F
準備完了		PPM Workplan Template	標準オブジェ F
		PVCS ファイル移行	標準オブジェ… F
	クリア		
	オブジェク		
			OK キャンセル
		21 件の選択項目が返されました。	

7. [行の追加] ウィンドウで関連するフィールドを入力し、[OK] をクリック します。

[行の選択] ウィンドウから複数のパッケージ明細を追加できることもあ ります。これが可能なのは、移行する複数のブジェクト(ファイル)が同 じ場所にある場合です。

1つの[行の追加]ウィンドウから複数の明細を追加するには、次の条件を 満たしている必要があります。

- パッケージ明細がすべての同じワークフローに従い、同じオブジェク トタイプを使用している。
- オブジェクトタイプパラメータに、[複数]ボタンが有効なオートコン プリートリストフィールドが少なくとも1つある。

複数のファイルを選択することで、複数のパッケージ明細をパッケージに 追加できます。ただし、1つのパッケージ明細に複数のオブジェクトを定 義することはできません。

(身行の追加		×
「オブジェクトゟ	タイプ情報	
オブジェクト:	タイプ: RCS ファイル移行	
シー!	ケンス: 3 アブリケーション コード: なし	-
バラメータコ	レーザデータ	
File Location:	サーバ	-
Sub Path:		2
File Name:		
Version Label:	[PKG.NUMBER]	
File Type:	ASCII	-
クリア	OK 追加 キャンセ	N
		_

[行の追加] ウィンドウの内容は、[パッケージ] ウィンドウでパッケージ明 細として表示されます。[行の追加] ウィンドウが閉じます。[行の追加] ウィンドウで [**追加**] をクリックすると、[パッケージ] ウィンドウにパッ ケージ明細が加わります。[行の追加] ウィンドウは開いたままです。

🕼 パッケージ: 30015		
「パッケージ情報		
パッケージ番号: 30015	パッケージ グループ:	作成者: Admin User
説明: path test		作成日時: 2013/04/12 🔟
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->	テスト->本番 🔠	パッケージ ステータス: 新規
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低 ▼	上位:
アサイン先グループ: 国王	パッケージタイプ: カフタマイプ	優先度シーケンス: 50
送成來 (\$) [0		19570767 7 7 7 7 1 00
) ±0%+ (%) 10		
パッケージ明細 ステータス メモ 巨 参照 ユーサ	データ	
シーケン オブジェクトタイプ アプリ	ケーション 1	2
$1 - \frac{1}{2r^2 + 2r^2} - \frac{1}{2r^2} - \frac{1}{$	Client File Name:	Sub Path: File Type:
2 Jア1ル移行 (なし)	File Location: サーバ	Sub-Path: test File Name
4		F
新規明細		の削除
送信		

8. [パッケージ] ウィンドウで、[OK] または [保存] をクリックします。

パッケージ明細がパッケージに追加されます。関連付けられているワーク フリーでパッケージを開始するには、[送信]をクリックします。パッケー ジをワークフローに送信すると、ワークフローの定義されている各ワーク フローステップの [ステータス] タブでエントリが生成されます。ワークフ ローの各ステップは処理の準備ができているため、ステップのステータス は [適格] と表示されます。各パッケージ明細の進捗を確認するには、[ス テータス] タブをクリックします。パッケージを送信する方法については、 「パッケージの送信」(88ページ)を参照してください。

# パッケージへのメモの追加

[パッケージ]ウィンドウの [メモ]タブ(図 3-1)には、その他のパッケージ情報が表示されます。メモの添付先はパッケージであり、個々のパッケージ明細ではありません。パッケージ明細に固有のメモがある場合、メモのテキストの一部としてパッケージ明細への参照を含める必要があります。

柳 パッケージ: 30015			_ <b>_ _</b> ×				
「パッケージ情報							
パッケージ番号: 30015	パッケージ グループ:		作成者: Admin User				
説明: path test			作成日時: 2013/04/12 🔟				
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->	テスト->本番	Ħ	パッケージ ステータス: 進行中				
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低	-	上位:				
アサイン先グループ:	パッケージタイプ: カスタマイズ	-	優先度シーケンス: 50				
達成率 (%): 0							
パッケージ明細 ステータス 巨 メモ   巨 参照   ユ	ーザ データ						
既存のメモ	新規メモ						
X1400メモ   新規メモ							
最大化							
送信			OK 保存 キャンセル				
準備完了							

#### 図3-1. [パッケージ] ウィンドウの [メモ] セクション

メモを追加できるのは、既存のパッケージ、作成中のパッケージ、クローズ していない送信済みパッケージです。クローズしたパッケージにメモを追加 することはできません。

メモを追加するには、パッケージを開き、[メモ] タブをクリックします。[新 規メモ] フィールドにメモのテキストを入力し、[保存] をクリックします。[既 存のメモ] フィールドにメモが追加されます。

## パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加

[パッケージ詳細] ページの [**参照**] セクションを使って、パッケージに数タイプの参照を追加できます。たとえば、パッケージにドキュメントやURLを追加できます。パッケージに追加できる参照タイプは次のとおりです。

- 添付ファイル
- パッケージ(新規および既存)
- プロジェクト
- リリース
- リクエスト(新規および既存)
- タスク
- URL

参照によっては (リクエスト、その他のパッケージなど)、元のパッケージと の機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先 行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズするまでパッ ケージを続行できないことを意味します。参照と可能な依存関係リレーショ ンシップのリストについては、「参照リレーションシップ」(42ページ)を参照 してください。

このセクションでは、パッケージWorkbenchを使ってさまざまなエンティティ タイプをパッケージ参照として追加する方法を説明します。標準インタ フェースからパッケージ参照を追加する方法については、「標準インタフェー スでのパッケージへの参照の追加」(96ページ)を参照してください。

### パッケージ参照としての添付ファイルの追加

このセクションでは、添付ファイルをパッケージ参照として追加する手順について説明します。

添付ファイルをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

**PPM Workbench**が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. パッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。

🍻 パッケージ: 30015					<u> </u>
「パッケージ情報					
パッケージ番号: 30015	パッケージ グループ:			作成者: Admin U	ser
説明: path test			f	作成日時: 2013/04	/12
ワークフロー: (REFERENCE) 開発-:	>テスト->本番		11日 パッケージ。	ステータス: 進行中	
アサインされたユーザ: Admin User		低	<b>T</b>	上位:	
アサイン先グループ:	· ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	カスタマイズ	 優先度:	シーケンス: 50	
達成率 (%): 0	-	,	_		
パッケージ油目を回してテーカフ」(言)オエ「言」参照し、	コーザ データー				
	エージ リージ   ¥条曲	フテーク   達成座 (9	K) []#88 []]]		
パッケージ 30016 (REFERENCE) 開	+====  発->テスト->本番	新規 0%	コビニこの	バッケー 情報:ノ	- ジョンジリ ユーリ パッケージ 3 Admin.
•					
太字で表示されている 項目 は、この パッケージ を	モアクティブに制御していき	ŧŧ			
新規参照 パッケージ(既存) 💌 <u>追加</u>	肖耶余				参照を開く
送信				OK f	呆存 キャンセル
準備完了					
6. [新規参照] リストで [添付ファイル] を選択し、[追加] をクリックします。

[ドキュメントの追加] ウィンドウが開きます。

🕼 ドキュメントの追加				×
ファイル:				
			参照	
Ut the Andrew State of the sec				
TF者:  Admin User 説明:				
				.
	追加	++)	セル	

- ファイルを添付してフィールドを入力し、[追加]をクリックします。
   [参照] タブに、添付ファイルが一覧表示されます。
- 8. [OK] または [保存] をクリックします。

# パッケージ参照としての既存パッケージの追加

パッケージへの参照として既存のパッケージを追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. パッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストから [パッケージ(既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - パッケージ(既存)] ウィンドウが開きます。

(/) 新規参照 - パッケージ (既存)
パッケージ番号:
選択した パッケージ の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択
⑥ このパッケージ関連 - (情報) - 選択したパッケージはパッケージ 30015 に関連付けられています
◎ リリースのこのパッケージの後に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の後に実行する必要がありま
◎ リリースのこのパッケージの前に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の前に実行する必要がありま
◎ 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、パッケージ 30015 に対するアクションは実行できません
◎ 後続タスク - (ブロックされました) - パッケージ 30015 がクローズするまで、選択したパッケージに対するアクションは実行できません
×
検索         OK         キャンセル
準備完了

 [選択したパッケージのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップ プを選択]で、そのパッケージと開いたパッケージのリレーションシップ を示すオプションを選択します。 8. [パッケージ番号] オートコンプリートリストから既存のパッケージを選択 します。

[パッケージ番号] フィールドに、選択したパッケージの番号が表示されます。

[選択したパッケージのパッケージ<パッケージ番号>に対するリレーションシップを選択]で、そのパッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、[OK]をクリックします。

[**参照**] タブに、選択したパッケージが一覧表示されます。

10. [**OK**] または [**保存**] をクリックします。

パッケージ参照としての新規パッケージの追加

新しいパッケージにパッケージを参照させることができます。

パッケージ参照として追加するパッケージを作成するには、次の手順を実行 します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストから [パッケージ(新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - パッケージ (新規)] ウィンドウが開きます。

(の)新規参照 - パッケージ (新規)	×
選択した パッケージ の パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択	
⑦ このパッケージ関連 - (情報) - 選択したパッケージはパッケージ 30015 に関連付けられています	
○ リリースのこのパッケージの後に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の	後に実行する必要がありま
│ ○ リリースのこのパッケージの前に実行してください - (情報) - 選択したパッケージは、パッケージ 30015 の	前に実行する必要がありま
📗 🔿 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したパッケージをクローズするまで、パッケージ 30015 に対するア	ククションは実行できません
│ ○ 後続タスク - (ブロックされました) - パッケージ 30015 がクローズするまで、選択したパッケージに対するフ	ククションは実行できません
4	Þ
T)	成 キャンセル
準備完了	

[選択したパッケージのパッケージ<パッケージ番号>に対するリレーションシップを選択]で、新しいパッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプションを選択し、「作成]をクリックします。

新しい[パッケージ]ウィンドウが開きます。

- 8. [**ワークフロー**] フィールドに、新しいパッケージに適用するワークフロー の名前を入力します。
- 9. [メモ] タブに記録するその他の情報を入力し、値を変更して、[保存] また は [OK] をクリックします。

[参照] タブに、新しいパッケージ参照が一覧表示されます。

10. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

# パッケージ参照としてのプログラムの添付

既存のプログラムにパッケージを参照させることができます。 既存のプログラムを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbenchが起動します。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbench が開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- [新規参照] リストで [プログラム] を選択し、[追加] をクリックします。
   [新規参照 プログラム] ウィンドウが開きます。



7. [**プログラム名**] フィールドで、オートコンプリートリストからプログラム を選択します。

[プログラム名] フィールドに、選択したプログラムが表示されます。

 [選択したプログラムのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップを選択]で、そのプログラムとパッケージのリレーションシップを示す オプションを選択し、[OK] をクリックします。

[参照] タブに、プログラム名が表示されます。

9. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

パッケージ参照としてのプロジェクトの添付

プロジェクトをパッケージ参照として添付するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbenchが起動します。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbench が開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストで [プロジェクト] を選択し、[追加] をクリックします。
   [新規参照 プロジェクト] ウィンドウが開きます。



- 7. [**プロジェクト名**] フィールドで、オートコンプリートリストからプロジェ クト名を選択します。
- 8. [選択したプロジェクトのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーション シップを選択] で、そのプロジェクトとパッケージのリレーションシップを 示すオプションを選択し、[OK] をクリックします。

[参照] タブに、選択したプロジェクトが一覧表示されます。

9. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

# 参照としてのリリースの追加

既存のリリースにリクエストを参照させることができます。

- リリースを参照させるには、次の手順を実行します。
- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[**管理**]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストで [リリース] を選択し、[追加] をクリックします。

[ステータス] セクションで、[新規参照 - リリース] ウィンドウが開きます。



7. [**リリース名**] フィールドで、オートコンプリートリストを使ってリリース 名を指定します。 8. [選択したリリースのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシッ プを選択] で、そのリリースとパッケージのリレーションシップを示すオ プションを選択し、[OK] をクリックします。

[参照] タブにリリースが一覧表示されます。

9. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

# パッケージ参照としての既存リクエストの追加

既存のリクエストにリクエストを参照させることができます。 既存のリクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストから [リクエスト (既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - リクエスト (既存)] ウィンドウが開きます。

(が)新規参照 - リクエスト (既存)	x
リクエスト番号:  国	
選択した リクエストの パッケージ 30015 に対するリレーションシップを選択:	
○ このパッケージの上位 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30015 の上位です	
● このパッケージ関連 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30015 に関連付けられています	
🛑 🔿 先行タスク - (ブロックしています) - 選択したリクエストをクローズするまで、パッケージ 30015 に対するアクション	は実行できません
📄 🔿 後続タスク - (ブロックされました) - パッケ ージ 30015 がクローズ するまで、 選択したリクエス Hに対するアクション	は実行できませ…
検索OK	キャンセル
準備完了	

- 7. [**リクエスト番号**] フィールドで、オートコンプリートリストを使ってリク エスト名を指定します。
- 8. [選択したリクエストのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシッ プを選択] で、そのリクエストとパッケージのリレーションシップを示す オプションを選択し、[OK] をクリックします。

[参照] タブに、既存リクエストが一覧表示されます。

9. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

### パッケージ参照としての新規リクエストの追加

新しいリクエストを作成し、パッケージ参照として追加することができます。 新規リクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストから [リクエスト (新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規参照 - リクエスト (新規)] ウィンドウが開きます。



- 7. [**リクエストタイプ**] フィールドで、オートコンプリートリストを使って作 成するリクエストタイプを指定します。
- 8. [選択したリクエストのパッケージ<パッケージ番号> に対するリレーションシッ プを選択] で、その新規リクエストとパッケージのリレーションシップを 示すオプションを選択し、[作成] をクリックします。

[新規リクエストの作成]ページが新しいブラウザウィンドウで表示され ます。

- 9. すべての必須(赤のアスタリスクが付いている)フィールドを入力します。
- 10. オプションのフィールドと [メモ] タブで、リクエストに関してユーザに公開するその他の情報を入力します。
- 11. [送信] をクリックします。

[パッケージ]ウィンドウの[**参照**]タブに、新規リクエストが一覧表示されます。

12. [保存] をクリックしてパッケージを保存します。

#### パッケージ参照としてのタスクの追加

既存のタスクをパッケージへの参照として追加することができます。

既存のタスクを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- 5. [新規参照] リストで [タスク] を選択し、[追加] をクリックします。 [新規参照 - タスク] ウィンドウが開きます。



- 6. [**タスク名**] フィールドで、オートコンプリートリストを使ってタスクを指定します。
- [選択したタスクのパッケージ <パッケージ番号> に対するリレーションシップ を選択]で、そのタスクとパッケージのリレーションシップを示すオプ ションを選択し、[OK] をクリックします。

[パッケージ]ウィンドウの[参照]タブに、タスクが一覧表示されます。

8. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

# パッケージ参照としてのURLの追加

URLにパッケージを参照させることができます。

URLを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbenchが起動します。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- 4. 参照を追加するパッケージを開きます。
- [パッケージ] ウィンドウで、[参照] タブをクリックします。
- 6. [新規参照] リストで [URL] を選択し、[追加] をクリックします。
   [新規参照 URL] ウィンドウが開きます。

🕼 新規参照 - URL			×
URL:			U
说8月:			
	ОК	追加	キャンセル
準備完了			

- 7. [URL] フィールドに、URLアドレスを入力します。
- 8. 指定したURLをテストするため、[URL] フィールドの右側にある [U] をク リックします。
- [説明] フィールドにURLとパッケージの関係の説明を入力し、[OK] をク リックします。

[パッケージ] ウィンドウの [参照] タブに、URL が表示されます。

10. [保存]をクリックしてパッケージを保存します。

# パッケージの送信

パッケージが完成したら、送信できます。完成したパッケージには、次のも のが必要です。

- パッケージ番号
- 関連付けられているワークフロー
- 少なくとも1つのパッケージ明細

パッケージが完成して送信できる状態である場合、[パッケージ]ウィンドウの左下隅で[**送信**]ボタンが有効になります。

完成したパッケージを送信するには、[送信]をクリックします。

# 第4章 パッケージの処理

# パッケージ処理の概要

HP Deployment Management でパッケージを送信した後、処理と管理を行うことができます。パッケージの処理とは、ワークフローを通してパッケージを進めながら作業することを指します。

注意が必要なパッケージは、次の方法で検索できます。

- パッケージWorkbenchを使用:パッケージWorkbenchの[クエリ]タブで、 パッケージを検索する検索条件を指定します。パッケージが見つかった ら、強調表示して[開く]をクリックします。選択したパッケージが[パッ ケージ]ウィンドウで開きます。
- 標準インタフェースでポートレットを使用:関連するパッケージを最もす ばやく検索するには、標準インタフェースを使用します。PPM Dashboard ページに[マイパッケージ]ポートレットがある場合、自分が作成したパッ ケージと自分に割り当てられているパッケージがすべて表示されます。 パッケージ番号をクリックすると、標準インタフェースでパッケージが開 きます。
- 標準インタフェースで検索を使用:標準インタフェースの検索でも、パッケージを検索できます。標準インタフェースのメニューバーで、[検索]> [パッケージ]を選択します。[パッケージの検索]ページが開きます。[パッケージの検索]ページで検索条件を入力し、[検索]をクリックします。[パッケージ検索結果]ページでパッケージ検索結果]ページでパッケージ番号をクリックすると、標準インタフェースでパッケージが開きます。

- 通知を使用: ワークフローを通してパッケージの処理を進めているとき、保留中のアクションを知らせる電子メール通知が送信されることがあります。通知には、パッケージへのリンクを記載できます。リンクをクリックすると、参照されたパッケージがPPM Workbenchで開きます。現在、PPMCenterにログインしていない場合、[ログオン]ページが開きます。
- オープン済みのパッケージでレポートを生成(標準インタフェース): HP Deployment Management では、HTML テキストを生成し、Web ブラウザで アクセスできる、一連のレポートがあらかじめ定義されています。これら のレポートの中に保留中のパッケージレポートがあります。このレポート には、保留中のアクティビティがあるオープン済みのパッケージが表示さ れます。

HP Deployment Management の各レポートの生成と表示の詳細については、 『Reports Guide and Reference』を参照してください。

標準インタフェースからパッケージを処理する方法については、「標準インタフェースを使ったパッケージの処理」を参照してください。

# 標準インタフェースを使ったパッケージの処理

標準インタフェースの[パッケージ詳細]ページを使って、ワークフロー全体 を通してパッケージを処理できます。パッケージにメモや参照を追加したり、 パッケージのステータスを決定したりすることが可能です。PPM Workbench からパッケージを処理する方法については、「PPM Workbenchを使ったパッ ケージの処理」(111ページ)を参照してください。

### 標準インタフェースでのパッケージの開始

このセクションでは、標準インタフェースの[パッケージの検索]ページ、ポートレット、電子メール通知のパッケージリンクを使ってパッケージを開く方法について説明します。

[パッケージの検索]ページからのパッケージの開始

[パッケージの検索]ページを使ってパッケージを開くには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く] > [Deployment Management] > [パッケージの検索] を選択します。

[パッケージの検索]ページが開きます。

3. 検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

[パッケージ検索結果]ページに、指定した条件に一致するパッケージが一覧表示されます。

4. [パッケージ番号] 列で、開くパッケージのパッケージ番号をクリックします。 パッケージの詳細ページが開きます。

#### [マイパッケージ] ポートレットからのパッケージの開始

PPM Dashboard のページに [マイパッケージ] ポートレットが表示されていな い場合、追加できます。PPM Dashboard のページにポートレットを追加する方 法については、『ポートレットとモジュールの作成』ガイドを参照してくだ さい。

[マイパッケージ] ポートレットを使って、作成したパッケージや割り当てら れているパッケージを開くには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから [**ダッシュボード**] を選択し、[マイパッケージ] ポート レットが表示されている PPM Dashboard のページを選択します。

[マイパッケージ]ポートレットに、作成したパッケージがすべて一覧表示 されます。

3. [マイパッケージ] ポートレットの [パッケージ番号] 列で、開くパッケージ の番号を選択します。

パッケージの詳細ページが開きます。

#### 通知リンクを使ったパッケージの開始

パッケージがワークフローステップを経て進むにつれ、そのパッケージの保 留中のアクションを知らせる電子メール通知が送信されることがあります。 通知にパッケージへのリンクが記載されている場合、そのリンクをクリック すると、参照されたパッケージがPPM Workbenchで開きます(PPM Centerにロ グインしていない場合、[ログオン]ページが開きます)。

#### 標準インタフェースでのパッケージの承認

標準インタフェースを使ってパッケージを承認するには、次の手順を実行します。

1. PPM Center にログオンします。

2. 承認するパッケージを開きます。

詳細ページを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージの開始」(91ページ)を参照してください。

バッケージ 30030										
								保存		927
৲৵ঢ়										
パッケージ番号:	30030	パッケージ グルーフ:			作成者:	Admin User				
196 <b>年月</b> :	Dev to Test - sql and html File I	Aigration			作成日時	December 10, 20	008			
7-978-:	Standard Deployment				<del>አ</del> ም-ቁ <mark>አ</mark> :	進行中				
アサインされたユーザ:	8	優先度:	Low	×	上位:					
アサイン先グループ:	[ ] [ ]	パッケージ タイプ:	Customization	~	委先班シーケンス:	50				
dtaff# (%):	0									
ステータス										
明細の表示: ④ 俳智	留中の明細のみ			ステップの	表示: ● 自分のアクシ	ョンを待っ ステップ				
0 âv	≺< <b>ट</b> 04948				○ すべてのステ	v7 📃	ya kasi a			
表示すべての明細				連格な	ステップの表示: 期間	Standard Deploy	yment			
シーケンス	オブジェクト名	オブジェクトタイプ		0	5: QA Test	)	0		D	
1	mainpage.html	File Migration			油柏					
まべできょっか メモ	すべてクリア 明潔の詳	■ <u>ロゲの表</u> 栄			オペモチェック	すべてクリア	ワークフロー アクション		ee	> >> >
鼻存時に追加されるメモ:										
		~								
		$\sim$								
st:809										
老照の追加										
	100 idin									
8.58 [3th 35.58]										
	調く	PER.								
								保存		リセット

[ステータス] セクションに、ワークフローのパッケージ明細が表示されます。

- 3. [ステータス] セクションの [明細の表示] の横で、次のいずれかの操作を行います。
  - アクションに対して適格なパッケージ明細のみを表示するには、[保留 中の明細のみ]、[リフレッシュ]の順にクリックします。
  - ワークフローのすべてのパッケージ明細を表示するには、[すべての明細]、[リフレッシュ]の順にクリックします。
- 4. [ステータス] セクションの [ステップの表示] の横で、次のいずれかの操作 を行います。
  - アクション待機中のワークフローステップのみを表示するには、[自分のアクションを待つステップ]、[リフレッシュ]の順にクリックします。
  - すべてのワークフローステップを表示するには、[すべてのステップ]、[リ フレッシュ]の順にクリックします。

ステータス							
明細の表示: ④ 保留中の明細のみ		ステップの	)表示: ④ 自分の	アクションを待つ ステ	・ップ		
○ すべての明細			) রন্ব	のステップ	ב לפי ל דע		
表示すべての明細		適格な	にステップの表示:	期間 Standard	Deployment		
シーケンス オブジェクト名	オブジェクト タイプ	0	5: QA Test	0	0	0	
1 mainpage.html	File Migration		適格				
2 Load_Distribution_Data.sql	File Migration		適格				
<b>すべてチェック</b> すべてクリア 呪師の辞得	ログの表示		すべてチェック	すべてクリア	ワークフロー アクション		

ワークフロー名の下には、ワークフローを完了するために実行と承認が必要な番号付きステップがあります。ワークフローステップで前後にナビ ゲートするには、方向矢印を使用します。

5. [適格なステップの表示<ワークフロー名>] セクションで、承認する(または 承認しない)番号付きワークフローステップに対応するオプションボタン を選択し、承認する(または承認しない)特定の明細の[適格]チェックボッ クスを選択します。

すべてのステップを選択するには、[すべてチェック]をクリックします。

ワークフローステップのすべての [適格] チェックボックスをクリアする には、[**すべてクリア**]をクリックします。

6. アクションに対して 1 つ以上のパッケージ明細を選択したら、[ワークフ ローアクション]をクリックします。

[パッケージ:ワークフローアクション]ページが開きます。

7. [必須アクション] セクションで、ステップの結果を選択します。

結果は設定可能であるため、サイトの設定によってワークフローステップ ごとに異なります。前の例では、可能なアクションは次のとおりです。

- ワークフローステップで承認の準備ができている場合、[承認済み]を選択します。
- ワークフローステップで承認の準備ができていない場合、[未承認]を 選択します。
- 8. [**OK**] をクリックします。

[パッケージ詳細]ページが開きます。選択したワークフローステップを承認した(または承認しなかった)ため、ワークフローは次のステップに進みます。このプロセスは、パッケージがすべてのステップを経て解決されるまで続きます。

#### 標準インタフェースでのパッケージへのメモの追加

[メモ] セクションには、パッケージの補足情報を入力するフィールドがあり ます。メモを追加するには、[メモの追加] サブセクションに情報を入力しま す。メモを保存するには、パッケージを保存します。

既存のメモの表示は、[既存のメモ] セクションで行います。既存のメモは暦順 に一覧表示されます。最新のメモが一番最初に表示されます。既存のメモは、 [ユーザメモのみ表示]、[メモの作成者]、[変更済みフィールド] でフィルタでき ます。

既存のメモを削除することはできません。

図4-1. [メモ] セクション

奼	
保存時 に追加 されるメモ:	
	~
	~

### 標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加

場合によっては、パッケージにWebアクセス可能なファイル、ドキュメント、 ローカルマシンのファイルを参照させると便利です。このような参照をパッ ケージに追加するには、標準インタフェースを使用します。

パッケージ参照として追加できるエンティティは、次のとおりです。

- 添付ファイル
- パッケージ(新規または既存)
- プロジェクト
- リリース
- リクエスト(新規または既存)
- タスク
- URL

参照タイプによっては (リクエスト、その他のパッケージなど)、参照との機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先行タスクとして指定できます。これは、参照されたリクエストがクローズするまでパッケージを続行できないことを意味します。有効なパッケージ参照と、パッケージとのリレーションシップの詳細については、「参照リレーションシップ」(42ページ)を参照してください。

このセクションでは、標準インタフェースからパッケージにさまざまなタイプの参照を追加する方法について説明します。PPM Workbenchからパッケージ参照を追加する方法については、「パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加」(71ページ)を参照してください。

#### 参照としての添付ファイルの追加

添付ファイルをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。



- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストで [添付ファイル] を選択し、[追加] をクリックします。

[ドキュメントの追加] ウィンドウが開きます。

Project and Point	tfolio Management Center
ドキュメナの追加	
* ファイル:	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
初期バージョンのコメント:	
	^
	$\sim$
作者:	
Admin User	
说明:	キーワード:
	ドキュメントコンデンツロは自動的にインデックスが作成されます。
	✓ 9°。 追加のキーワードをこコに入力してください。
	追加ーキャンセ

- 5. [**ファイル**] フィールドの横にある [参照] をクリックし、参照として添付す るドキュメントファイルを参照して選択します。
- 6. [作者] フィールドで、デフォルト値を添付ファイルの作成者名に置き換えることができます。
- 7. [説明] フィールドに、添付ファイルの説明を入力します。

8. [追加] をクリックします。

[パッケージ]ページの[保存時に追加される参照]フィールドに、参照された添付ファイルが一覧表示されます。

**9**. [**保存**] をクリックします。

添付ファイルがリクエスト参照として追加されます。

#### パッケージ参照としての既存パッケージの追加

既存のパッケージにパッケージを参照させることができます。

既存のパッケージをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

3. [参照] セクションまでスクロールします。

4. [新規参照] リストから [パッケージ(既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照の追加:パッケージ] ウィンドウが開きます。

惨照の追加: バッケージ	7				検索	キャンセル
表示する パッケージ の検	索				フィー	ルドのクリア
バッケージ番号:						
ワークプローン				:=		
オブジェクト タイプ:						
オブジェクト名:						
アサイン先:				- &		
作成者:				- &		
作成日が次の日から		1	次の日まで:		P	
説明中のキーワード:						
クローズしたものを含める	೦¦‡ು ®ುರಿಸ					
マイアクションが可能	0¦‡\) ®\)\\え					
送信済みのみ	೦ ‡೧ ©೧೧೩					
次へのアクションを禁止:	ロリクエスト					
	ロバッケージ					
<b>ソート基準:</b> バッケージ番	号 ◇ 昇順					
	●『绛川順					
*1 ページ当たりの最大結果	<b>汝:</b> 50					
					検索	キャンセル

Project and Portfolio Management Center

5. 検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

[パッケージ検索結果] セクションに、検索条件に一致するパッケージが一 覧表示されます。

6. 参照として追加するパッケージのチェックボックスを選択し、[**追加**]をク リックします。

[パッケージ]ページの[保存時に追加される参照]フィールドに、参照され たパッケージが一覧表示されます。

7. [保存]をクリックします。

#### パッケージ参照としての新規パッケージの追加

新しいパッケージにパッケージを参照させることができます。

パッケージ参照として新しいパッケージを追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストから [パッケージ(新規)] を選択し、[追加] をクリックします。

[新規パッケージの作成] ウィンドウが開きます。

- 5. [**リレーションシップ**] で、新しいパッケージと開いたパッケージのリレー ションシップを示すオプションを選択します。
- [Select which Relationship the new Package will have to Package #(新しい パッケージのパッケージ番号に対するリレーションシップを選択)] で、新しい パッケージと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプション を選択します。

参照リレーションシップのさまざまなタイプの詳細については、「参照リ レーションシップ」(42ページ)を参照してください。 7. [作成] をクリックします。

[新規パッケージの作成] ウィンドウが開きます。

# Ipp Project and Portfolio Management Center

新規バッケージの作成
<ul> <li>リレーションシップ:</li> <li>○ の バッケージ制造・(情報) - 違択した バッケージ 300301 に関連付けられています</li> <li>○ リリースのこの ドッケージの後に実行して ださい - (情報) - 違択した バッケージ 30030 の前は 二実行する 必要があります (高者がリリースにある場合)</li> <li>○ リリースのこの ドッケージの前に実行して ださい - (情報) - 違択した バッケージ 30030 の前は 二実行する 必要があります (高者がリリースにある場合)</li> <li>○ パースのこの ドッケージの前に実行して ださい - (情報) - 違択した バッケージ 30030 の前は 二実行する 必要があります (高者がリリースにある場合)</li> <li>○ 代行 シスク・(プロッシス)では すう - 違択した ドッケージをコープ ちまで、 こ 違択した パッケージ 30030 の前は 二実行する どう 2013</li> <li>○ (後長 シスク・(プロックされました) - バッケージ 30030 がつローズ するまで、 違択した パッケージに対する アクションは実行できません</li> </ul>
作成 キャンセル

- 8. [**ワークフロー**] フィールドに、新しいパッケージに適用するワークフロー の名前を入力します。
- 9. 保存するオプションの情報を入力し、値を変更して、[保存]をクリックします。

[パッケージ]ページの[保存時に追加される参照]フィールドに、新しい参照されたパッケージが一覧表示されます。

10. [保存] をクリックします。

#### パッケージ参照としてのプログラムの追加

既存のプログラムにパッケージを参照させることができます。

プログラムをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストで [プログラム] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照プログラム] ウィンドウが開きます。

🕼 Project and Portfolio Management Center	
参照ブログラム	
・リレーシェンシップ: ●このパッケージ間達 - (情報)、選択したプログラムはパッケージ 30030 に関連付けられています	
	追加 キャンセル

5. [**プログラム**] フィールドでプログラム名を指定するには、オートコンプリー トリストから名前を選択して [**追加**] をクリックします。

[パッケージ]ページの[**保存時に追加される参照**]フィールドに、選択した プログラムが一覧表示されます。

**6**. [**保存**] をクリックします。

### パッケージ参照としてのプロジェクトの添付

プロジェクトをパッケージ参照として指定するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストで [プロジェクト] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照の追加: プロジェクト] ウィンドウが開きます。

ほ示するプロジェクトの検索					
プロジェクト名 (きむ): プロジェクト タイプ:			詳細検索	プロジェクト マネージャ:	
計画開始日が次の日から:	6	次の日まで	2		
計画終了日が次の日から:	<u> </u>	次の日まで	10		
終了したプロジェクトを含める:	○はい●いいえ				
<b>ヘルス:</b>	□ <mark>●</mark> □ <u>△</u> □ &			関連付けられたプログラム: 地域:	
ドキュメント キー ワード: 添付ドキュ:	>Cトの内容と詳細を検索します	•			
			2		

5. 1つ以上の利用可能なフィールドに検索条件を入力し、[検索]をクリック します。

[参照の追加: プロジェクト] ウィンドウに、指定した検索条件に一致する プロジェクトが一覧表示されます。

6. [表示するプロジェクトの選択] セクションで、パッケージ参照として追加す るプロジェクトのチェックボックスを選択します。 7. [追加]をクリックします。

[パッケージ]ページの[保存時に追加される参照]フィールドに、参照され たプロジェクトが一覧表示されます。

8. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としてのリリースの追加

既存のリリースをパッケージ参照として追加することができます。

既存のパッケージにパッケージを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストで [リリース] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照リリース] ウィンドウが開きます。

#### Project and Portfolio Management Center

参照リリース			
<b>リレーションシップ:</b> ●このバッケージを含みます - (情報) - バッケージ 30030 は選択したリリースに含まれています			
	ſ	追加	キャンセル

5. [**リリース**] フィールドでリリース名を指定するには、オートコンプリート リストから名前を選択して [**追加**] をクリックします。

[パッケージ]ページの[**保存時に追加される参照**]フィールドに、参照され たリリースが一覧表示されます。

**6**. [**保存**] をクリックします。

#### パッケージ参照としての既存リクエストの追加

既存のリクエストにパッケージを参照させることができます。

既存のリクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストから [リクエスト (既存)] を選択し、[追加] をクリックします。

[参照の追加: リクエスト] ウィンドウが開きます。

5. リクエストの検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

Project and Portfolio Management Cent	er
---------------------------------------	----

.....

も示するリクエスト の検索				フィールドの	קעל
リクエスト タイプ:			詳細検索		
ステータス:			優先度:		
アサイン先:			アサイン先グループ:		
作成者:			リクエスト サブ タイブ:		
部署:			アプリケーション:		
ワークプロー:			リクエスト グループ:		
連絡先:			会社名:		
リンクされたプロジェクト:			リクエスト番号:		
作成日が次の日から:		🗌 🤡次の日まで	:		
最終更新日が次の日から		_ ☆次の日まで	:		
<b>リクエスト キー ワード</b> : リクエス	トメモと説明の内容を検索	刺します。			
ドキュメント キー ワード: 添付け	キュメントの内容と詳細な	を検索します。 🧃	▶□ 過去のバージョンの検索		
ドキュメント ファイル名(含む):					
次へのアクションを禁止:	ロリクエスト		マイアグションが可能	○はい ●いいえ	
	ロバッケージ		クローズしたものを含める	⊂)ສະ≀ ©ເກເຊັ	
	<		>		
ソート基準:	リクエスト番号		- ○昇順 ●降順		
ソート基準: ・1 ページ当たりの最大結果数:	リクエスト番号 50	E	<ul> <li>一昇順 ●除順</li> <li>*返される行の最大数: [</li> </ul>	1000	
ソート基準: *1 ページ当たりの最大結果数: ゆの選択	Uクエスト番号 50	2	<ul> <li>一 昇順 ● 降順</li> <li>・返される行の最大数: [</li> </ul>	1000	

 「選択したリクエストのパッケージ番号に対するリレーションシップを選択」で、 新しいリクエストと開いたパッケージのリレーションシップを示すオプ ションを選択します。

参照リレーションシップのさまざまなタイプの詳細については、「参照リ レーションシップ」(42ページ)を参照してください。

7. パッケージ参照として追加するリクエストのチェックボックスを選択し、 [追加]をクリックします。

[パッケージ]ページの[保存時に追加される参照]フィールドに、参照され たリクエストが一覧表示されます。

8. [保存]をクリックします。

パッケージ参照としての新規リクエストの追加

新規リクエストを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- 4. [新規参照] リストから [リクエスト (新規)] を選択し、[追加] をクリックし ます。

[新規リクエストの作成] ウィンドウが開きます。

Project and Portfolio Management Center

新規リクエストの作成
ሀታェスト <i>タイプ</i> :
<b>リレーションシップ:</b> つこのパッケージの上位 - (情報) - 選択したリクエストはパッケージ 30030 の上位です
●このパッケージ関連 - (情報) - 違択したリクエストはパッケージ 30030 に関連付けられています
○先行タスク - (ブロックしています) - 灌択したリクエストをクローズするまで、バッケージ 30030 に対するアクションは実行できません
○後続タスク - (ブロックされました) - バッケージ 30030 がクローズするまで、選択したリクエストに対するアクションは実行できません

作成キャンセル

5. [リクエストタイプ] リストから、開いたパッケージへの参照として作成す るリクエストのタイプを選択します。

6. [**リレーションシップ**] で、新しいリクエストと開いたパッケージのリレー ションシップを示すオプションを選択します。

参照タイプとその定義、可能な依存関係リレーションシップのリストについては、「参照リレーションシップ」(42ページ)を参照してください。

7. [作成] をクリックします。

[新規 <リクエストタイプ>の作成] ウィンドウが開きます。

- すべての必須(赤のアスタリスクが付いている)フィールドにデータを入 力し、新しいリクエストについて記録するオプションのデータを入力し ます。
- 9. [送信] をクリックします。

[パッケージ]ページの[**保存時に追加される参照**]フィールドに、新しいリ クエストが一覧表示されます。

10. [保存] をクリックします。
#### パッケージ参照としてのタスクの追加

既存のタスクにパッケージを参照させることができます。

既存のタスクを参照させるには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- (新規参照) リストで [タスク] を選択し、[追加] をクリックします。
   (参照の追加: タスク) ウィンドウが開きます。
- 5. 利用可能なフィールドに検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

[参照の追加:タスク]ウィンドウに、指定した検索条件に一致するタスク が一覧表示されます。

#### Project and Portfolio Management Center

参照の追加: タスク

表示するタスクの検索					
* 少なくとも1つのフィールドに入力する必要	があることを示します。				
*タスク名 (前方一致):					
リソース:		&	タスク ステータス:		=
終了したタスクを含める	೦はい ⊚いいえ				
例外のあるタスクのみ表示	೦はい ●いいえ				
マイルストーンのみ表示	○はい ●いいえ				
スケジュールされた開始日が次の日から:	<b>1</b>	次の日まで: 🗌	<b>1</b>		
スケジュールされた終了日が次の日から:	100 B	次の日まで: 🗌			
次の基準を満たすプロジェクト内の検索					
プロジェクト名:					
プロジェクト マネージャ:	admin				
ソート基準: タスク名	✓ ●昇順 ○降順		*1 ページ当たりの表示結果数:	50	
					検索

6. [表示するタスクの選択] セクションで、開いたパッケージに参照として追加 するタスクのチェックボックスを選択し、[追加] をクリックします。 [パッケージ]ページの[**保存時に追加される参照**]フィールドに、選択した タスクが一覧表示されます。

7. [保存] をクリックします。

パッケージ参照としてのURLの追加

既存のURLにパッケージを参照させることができます。

URLをパッケージ参照として追加するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. パッケージを開くか、パッケージを作成します。

パッケージを開く方法については、「標準インタフェースでのパッケージ の開始」(91ページ)を参照してください。

- 3. [参照] セクションまでスクロールします。
- [新規参照] リストで [URL] を選択し、[追加] をクリックします。
   [参照URL] ウィンドウが開きます。

Project and Portfolio Management Center				
参照 URL				
·URL: URLの表示				
1)UA1:				
	OK キャンセル			

- 5. [URL] フィールドに、URLアドレスを入力します。
- 6. 指定したURLをデフォルトのブラウザウィンドウでテストするため、[URL] フィールドの右側にある [U] をクリックします。
- 7. [説明] フィールドにURLとパッケージの関係の説明を入力します。

8. [OK] をクリックします。

[パッケージ]ページの[**保存時に追加される参照**]フィールドに、指定した URLが一覧表示されます。

**9**. [**保存**] をクリックします。

# PPM Workbenchを使ったパッケージの処理

PPM Workbench で送信済みのパッケージを処理するには、[パッケージ]ウィ ンドウを使用します。[パッケージ]ウィンドウから、ワークフローを通して 送信済みのパッケージを処理できます。パッケージへのメモや参照の追加、 パッケージのステータスの決定、パッケージに対するアクションの実行が可 能です。また、[パッケージ]ウィンドウからパッケージの変更や削除もでき ます。

#### PPM Workbenchからのパッケージの開始

PPM Workbenchからパッケージを開くには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[**管理**]>[Workbenchを開く]を選択します。

**PPM Workbench**が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

- すべての既存パッケージを表示するには、[リスト]をクリックします。
   検索を絞り込むには、1つ以上の検索フィールドに情報を入力します。
- 5. 表示されているパッケージを選択し、[開く]をクリックします。

#### パッケージのステータスの確認

各パッケージ明細は、割り当てられているワークフローによって定義された ビジネスプロセスに従う必要があります。各明細のすべてのワークフローお よびサブワークフローは、[パッケージ]ウィンドウの[**ステータス**]タブで表 示できます。

送信済みパッケージのステータスを表示するには、次の手順を実行します。

1. 送信済みパッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「PPM Workbench からのパッケージの 開始」(111ページ)を参照してください。

[パッケージ] ウィンドウが開きます。

- 2. [ステータス] タブをクリックします。
- 3. パッケージのステータスを確認します。

ここで、各パッケージ明細のステータスを確認できます。各ワークフロー ステップの結果はパッケージ明細行に記録されており、どの明細が正常終 了してクローズまたは失敗してクローズしたかをすばやく把握できるよ うになっています。

ワークフローステップは一覧表示されていますが、解決までにパッケージ 明細がすべてのステップを経る必要はありません。たとえば、再作業が必 要な場合のみ使用する再作業用のステップがある場合もあります。パッ ケージの詳細については、そのパッケージに関するログ、ビュー、レポー トのいずれかを選択してください。[ステータス]タブの詳細については、 「[パッケージ]ウィンドウの[ステータス]タブ」(35ページ)を参照してく ださい。

## 「適格」なステップの実行

パッケージを送信すると、各パッケージ明細の1つ以上のワークフローステッ プが [適格] に設定されます (113ページの図 4-2を参照)。これは、パッケージ の解決プロセスにおいて、まず実行または意思決定ステップを実行する必要 があることを示しています。適格なステップを実行する権限がある場合、[ス テータス] 列のテキストは太字で表示されます。

適格なステップによって、必要な操作は異なります。

- 「実行」ワークフローステップの場合、アクションを実行する必要があり ます。
- 「意思決定」ワークフローステップの場合、意思決定を行う必要があります。

アクションの実行または意思決定を行うと、HP Deployment Management に よって結果が表示されます。

🕼 パッケージ: 30015			_ <b>_</b> ×			
「パッケージ情報						
パッケージ番号: 30015 パッパ	ケージ グループ:	□ 作成者:	Admin User			
I税8用: path test		作成日時:	2013/04/12			
ワークフロー: (REFERENCE) 開発->テスト	->本番	□□ パッケージ ステータス:	進行中			
アサインされたユーザ: Admin User	優先度: 低	▼ 上位:				
アサイン先グルーナ: 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	ペッケージ タイプ: カスタマイズ	<ul> <li>優先度シーケンス:</li> </ul>	50			
達成率 (%): 0						
ジ明細 ステータス   El メモ   El 参照   ユーザ デ	-9					
シーケンス オブジェク オブジェクトタイプ	1 テスト環境への変更の移行	2 テストの変更	3 品質評価待ち 2			
1 ファイル クライアント	. 適格					
2 test ファイル移行	適格					
3 test RCS ファイル移行						
		1	F			
			(是約六の)是方			
送信			OK 保存 キャンセル			
準備完了						

#### 図4-2. [ステータス] タブの適格なステップ

#### ワークフローステップの処理

ワークフローステップを処理するには、次の手順を実行します。

1. 送信済みパッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「PPM Workbench からのパッケージの 開始」(111ページ)を参照してください。

[パッケージ] ウィンドウが開きます。

- 2. [**ステータス**] タブをクリックします。
- 3.1つ以上のパッケージ明細を選択します。

1つのパッケージ明細に対しては1つのステップを、複数の明細に対して は複数のステップを選択できます。アクションに対して適格なすべての パッケージ明細に対してすべてのステップを選択するには、[**すべてを選択**] をクリックします。

ー度に複数のワークフローステップを実行することはできません。複数の ワークフローステップのセルを選択すると、[**アクション**]ボタンは無効の ままです。指定したワークフローステップを実行するためのセキュリティ 権があれば、ボタンは有効になります。

実行のためのセキュリティ権限があるワークフローステップを選択する と、[ステータス] タブの右下にあるボタンのラベルが [アクション] からワー クフローステップ名に変わります。

 選択したステップに対してアクションまたは意思決定を実行するには、[ア クション]をクリックします。

[意思決定] ウィンドウまたは [実行] ウィンドウが開きます。

各ステップに選択した有効な結果が設定されています。

5. [意思決定] ウィンドウが開いている場合、[結果] リストから意思決定結果 を選択します。[実行] ウィンドウが開いている場合、リストから [今すぐ 実行]、[実行のスケジュール]、[実行のバイパス] のいずれかを選択します。 6. [**メモ**] フィールドに、保存するコメントを入力できます。

[意思決定] ウィンドウの詳細については、「意思決定ワークフローステッ プの実行」(116ページ) を参照してください。[実行] ウィンドウの詳細に ついては、「実行ワークフローステップの実行」(118ページ) を参照してく ださい。

7. [OK] をクリックします。

意思決定ステップでも実行ステップでも、ステップの結果はワークフローエ ンジンによって処理され、多くの変更が発生することがあります。ワークフ ロー定義ではワークフローおよびサブワークフローが複数存在することがあ り、この定義に基づき、特定のワークフローステップの結果によってほかの ワークフローステップが適格になることがあります。その場合は、パッケー ジ解決プロセスにおいて、次のアクションが実行されます。

後続ステップが適格になった場合は順番に実行され、次のワークフロース テップが適格になります。このプロセスは、パッケージが最終状態(通常はク ローズステップ)に到達するまで続行されます。

#### 意思決定ワークフローステップの実行

意思決定ワークフローステップは、ユーザまたはグループが結果を指定する 必要があるステップです。たとえば、「移行の承認」は、意思決定ワークフ ローステップの例です。自分で意思決定ステップを実行するか、意思決定を 委任することができます。

意思決定ワークフローステップを実行するには、次の手順を実行します。

1. [パッケージ] ウィンドウで、[**ステータス**] タブを選択します。

🐠 パッケージ: 30015			_ <b>_ _ _ _</b>
	10. L - 25 Hou - 40		
バックージ番号: [30015	ハッケーン クルーン: [		*b%者:  Admin User
		1 FA	- h7. 2013/04/12
アサムさわたフ、ぜ Admin Uses	(百十時, ///		
7912ctuzz=9: Admin Oser	愛元度: 15	<u> </u>	11 <u>1</u> 1 <u>1</u> 1
アサイン先グルーフ:   ・	パッケージタイプ: カスタマイズ	優先度シー	-ケンス:  50
達成率 (%):  0			
パッケージ明細 ステータス 巨 メモ 巨 参照 ユーサ	チ データ		
シーケンス オブジェク オブジェクトタイ	プ - フト環境への亦東の移行	2 テフトの亦画	3
1 ファイル クライアント	1 適格	JATOAL	
2 test ファイル移行	適格		
3 [test ]RCS J 7 1 JU48/T			
l	4		
リフレッシュ すべてを選択 + すべて -	■すべて ビュー> 明細実行口	グ(最新) 💌	保留中の保存
送信			OK 保存 キャンセル
·····································			

2. 適格な意思決定ワークフローステップを選択します。

[ステータス] タブにアクセスして適格な意思決定ワークフローステップを 選択する方法については、「「適格」なステップの実行」(113ページ) を参 照してください。

選択したステップに基づき、[**アクション**] ボタンのラベルが変更されます。 たとえば、[QAテスト][適格]をクリックすると、[アクション] ボタンの ラベルが「QAテスト」に変わります。



[ステータス] タブに [アクション] ボタンが表示されない場合、セキュリティグループはそのワークフローステップに割り当てられていません。

3. [アクション] ボタンをクリックします。ステップ2の例では、[QAテスト] をクリックします。

[QAテストパッケージの意思決定] ウィンドウが開きます。

- 4. リストから必要な該当するアクション ([今すぐ決定] または [意思決定の委任]) を選択します。
  - [今すぐ決定]を選択した場合、意思決定ワークフローステップに関する 意思決定を行う必要があります(例:[承認])。意思決定ワークフロース テップに関する意思決定を行うには、次の手順を実行します。
  - a. [結果] リストで、結果を選択します。
  - b. [メモ] フィールドに自分の意思決定に関する情報を入力し、[OK] をク リックします。

[意思決定] ウィンドウが閉じます。意思決定結果が [ステータス] タブ に追加されます。

- [意思決定の委任]を選択した場合、意思決定をほかのユーザに割り当て る必要があります。意思決定を委任するには、次の手順を実行します。
- a. [委任先] オートコンプリートリストを使ってリソースを選択します。
- b. [メモ] フィールドに必要な意思決定に関する情報を入力し、[OK] をク リックします。

[意思決定] ウィンドウが閉じ、結果が [ステータス] タブに一覧表示されます。

5. [OK] をクリックします。

意思決定がシステムに投入されます。複数のユーザが結果について意思決定 を行うようにワークフローステップが設定されている場合、必要なすべての 意思決定が行われるまで、パッケージ明細は次のステップに進めません。意 思決定ワークフローステップにおいて複数のユーザが結果について意思決定 を行う必要がある場合、[決定の詳細]ビューを使って、そのワークフロース テップの現在の意思決定結果を表示できます。

### 実行ワークフローステップの実行

実行ワークフローステップでは、HP Deployment Management システムによっ てアクションが実行され、ステップの結果が更新されます。これらのアクショ ンはトークン値の計算のように単純な場合も、ファイルのコピー、プログラ ムの実行、Webページの更新のように複雑な場合もあります。

実行ワークフローステップを実行するには、次の手順を実行します。

1. [パッケージ] ウィンドウの [ステータス] タブで、適格な意思決定ワークフ ローステップを選択します。

[ステータス]タブにアクセスして適格な意思決定ワークフローステップ を選択する方法については、「「適格」なステップの実行」(113ページ)を 参照してください。

[**アクション**] ボタンが有効になります。選択したステップに基づき、ボタンのラベルが変更されます。次の例では、[アクション] ボタンのラベルが「SAPエクスポート」に変わります。

∲ パッケージ: 30022			<u> </u>
「パッケージ情報			
パッケージ番号: 30022	パッケージ グループ:	田作	成者: Admin User
		作成	日時 2013/04/12 🔟
ワークフロー: xyz		日 パッケージ ステ	ータス: 進行中
アサインされたユーザ:	優先度: 低	<b>T</b>	上位:
アサイン先グループ:	パッケージ タイプ: カスタマイズ	▼ 優先度シー	ケンス: 50
達成率 (%): 0			
パッケージ明細 ステータス 巨メモ 巨参照 ユ	ーザ データ		
シーケンス オブジェク オブジェクト	1 2 コードレビ SAPエクスポート	3 4 テストに QAテスト	5 6 Prod1に移行 Prod2に移行 F
1 ファイルクライ	適格		
i i	•		Þ
リフレッシュ すべてを選択 牛 すべて	ヴベて> 明細実行	ログ(最新) 💌	SAPエクスポート
送信			OK 保存 キャンセル
準備完了			

 [ステータス] タブで [アクション] ボタン (この例では [SAP エクスポート]) をクリックします。

[SAPエクスポート実行] ウィンドウが開きます。

- 3. リストから [今すぐ実行]、[実行のスケジュール]、[実行のバイパス] のいずれ かを選択します。
  - [今すぐ実行]を選択して [OK] をクリックすると、ワークフローステップが実行されます。[実行]ウィンドウが閉じます。ワークフローステップの結果がワークフローステップのパッケージ明細に表示されます。このプロセスは、ソフトウェアの移行、PL/SQL 関数の実行、パッケージ明細のクローズ、その他のアクティビティで発生する可能性があります。実行エンジンによってステップが実行され、結果が設定されます。
  - [実行のスケジュール]を選択した場合、[実行日]および[実行時間]フィールドが表示されます。日時を選択し、[OK]をクリックします。[実行]ウィンドウが閉じます。実行スケジュールがワークフローステップのパッケージ明細に表示されます。このプロセスは、ソフトウェアの移行、PL/SQL 関数の実行、パッケージ明細のクローズ、その他のアクティビティで発生する可能性があります。実行エンジンによってステップが実行され、結果が設定されます。
  - [実行のバイパス]を選択した場合、[実行結果]フィールドが表示されます。結果を選択し、[OK]をクリックします。[実行]ウィンドウが閉じ、選択した結果がワークフローステップのパッケージ明細に表示されます。
- 4. [OK] をクリックします。

メモの追加

[パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ (図 4-3) には、その他のパッケージ情報が表示されます。

🕼 パッケージ: 30015	5				- <b>-</b> ×	
「バッケージ情報―				_		
パッケージ番号:	30015	パッケージ グループ:		1 作成者	Admin User	
    見日月:	path test			作成日時	2013/04/12	
ワークフロー・	(REFERENCE) 開発->=	テスト->本番		王 パッケージ ステータス:	進行中	
アサインされたユーザ:	Admin User 🔒	優先度:	低	] 上位		
アサイン先グループ:		パッケージ タイプ:	カスタマイズ	優先度シーケンス	50	
達成率 (%):	0					
パッケージ明細 ステー	奴 回光 回参照 ユ	ーザ データ				
既存のメモ			新規メモ			
最大化						
送信					OK 保存 キャンセル	
準備完了						

図4-3. [パッケージ] ウィンドウの [メモ] タブ

メモを追加するには、[新規メモ]フィールドにテキストを入力し、[保存]をク リックします。[既存のメモ]フィールドにメモが追加されます。

### 参照の追加、更新、削除

パッケージ参照の追加や更新は、PPM Workbenchの[パッケージ]ウィンドウの[**参照**]タブで行うことができます。次の各セクションでは、参照を追加、 更新、削除する方法について説明します。

#### 参照の追加

[パッケージ] ウィンドウの [**参照**] セクションには、その他のパッケージ情報 があります。たとえば、パッケージに参照としてドキュメントやURLを追加 できます。パッケージ参照として追加できるエンティティは、次のとおりです。

- 添付ファイル
- パッケージ(新規および既存)
- プロジェクト
- リリース
- リクエスト(新規および既存)
- タスク
- URL

参照によっては (リクエスト、その他のパッケージなど)、元のパッケージと の機能の依存関係を作成できます。たとえば、リクエストをパッケージの先 行タスクとして指定できます。これは、リクエストがクローズするまでパッ ケージを続行できないことを意味します。参照と可能な依存関係リレーショ ンシップのリストについては、「参照リレーションシップ」(42ページ)を参照 してください。

参照を追加する方法については、「パッケージWorkbenchからのパッケージへの参照の追加」(71ページ)または「標準インタフェースでのパッケージへの参照の追加」(96ページ)を参照してください。

#### 参照リレーションシップの更新

PPM Workbench から既存の参照リレーションシップを更新するには、次の手順を実行します。

1. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「PPM Workbench からのパッケージの 開始」(111ページ)を参照してください。

- 2. [参照] タブをクリックします。
- 3. 参照されたエンティティの [**リレーションシップ**] フィールドをクリック し、表示されているリストから項目を選択します。

(1) パッケージ: 30022	2						
「バッケージ情報―							
パッケージ番号:	30022		パッケージ グル・	ープ:	IB	作成者:	Admin User
    見印月:						作成日時:	2013/04/12
ワークフロード	xyz				II	パッケージ ステータス:	進行中
アサインされたユーザ:		*	優労	:度: 低	-	上位:	
アサイン先グループ:		II	パッケージタ	イプ: カスタ	71% 🔻	優先度シーケンス:	50
達成率 (%):	0			,			
/ パッケージ8月8日   ステー	タス】 (三) メモ	- 画 参照 ユ	ーザ データ				
タイプ 名前	目羊糸田	ステータス	達成率 (%)	脱明	リレーシ	'ヨンシップ	リレーションシップの詳細
パッケージ 30015	(REFE	進行中	0%	path test	このバッケージ開	iæ 🖻	情報: バッケージ 30015 はパ
					このパッケージ関注	車	
					リリースのこのバ・	ッケージの後に実行し	,
					リリースのこのバ・	ッケージの前に実行し	,
					先行タスク		
					後続タスク		
1							1
太宇で表示されている	項目は、こ	のパッケージをア	クティブに制御して	こいます			
新想参照しくったード	2 (PTZ) V	) isto	首IIB金				参昭を開く
	· (******/						
送信						C	IK 保存 キャンセル
"保存"成功。							

4. [OK] または [保存] をクリックします。

パッケージに加えた変更が保存されます。

参照の削除

PPM Workbenchから参照を削除するには、次の手順を実行します。

1. パッケージを開きます。

パッケージを開く方法については、「PPM Workbench からのパッケージの 開始」(111ページ)を参照してください。

- 2. [参照] タブをクリックします。
- 3. 参照を選択し、[削除]をクリックします。

参照が削除されます。

- 4. [保存]をクリックして、参照の削除を確認します。
- 5. 操作を取り消して参照の削除をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。

#### 進行中のパッケージへのパッケージ明細の追加

送信済みのパッケージにパッケージ明細を追加することができます。パッケージ明細を追加できるのは、ステータスが[進行中]のパッケージに対してです。この方法については、「パッケージへの明細の追加」(66ページ)を参照してください。

新しいパッケージ明細は、パッケージを保存するまで送信されません。パッ ケージを保存すると、新しいパッケージ明細はワークフローの最初のステッ プに送信され、そのパッケージのほかの明細に追いつくまで、個別に処理で きます。送信した時点で、新しいパッケージ明細にほかの明細と同じステー タスが自動的に割り当てられるわけではありません。

# 第5章 パッケージの管理

# HP Deployment Management でのパッケージの管理

HP Deployment Management でパッケージを送信した後は、パッケージの処理 と管理を行うことができます。パッケージの管理では、パッケージのコピー、 マージ、グループ化、編集、削除、パッケージグループの変更、パッケージ 明細のキャンセルを行います。次の各セクションでは、パッケージのコピー 以外のすべてのタスクについて説明します。パッケージのコピー手順につい ては、「既存パッケージのコピーを使ったパッケージの作成」(59ページ)を参 照してください。

# パッケージのマージ

2つ以上の既存のパッケージをマージすることで、新しいパッケージを生成で きます。この方法は、複数のパッケージ内にある特定のパッケージ明細で構 成される単一パッケージを生成する場合に役立ちます。

2つのパッケージをマージするには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[**開く**]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

**4**. **[クエリ]** タブで、**[リスト**] をクリックします。

[結果]タブに、既存のパッケージがすべて表示されます。

5. マージするパッケージを選択します。

隣接しない行を選択するには、[Ctrl] キーを使用します。隣接する行を選択するには、[Shift] キーを使用します。

Ø13-	ッケージ Workt	bench				_ 🗆		
3	パッケージ	説明	ワークフロー	パッケージ グ	パッケージステ	優労		
H	30022		xyz		進行中	低		
<u> </u>	30021		xyz		進行中	低		
栗	30020		(REFERENCE) 開発->テスト		新規	低		
錯	30017	test	(REFERENCE) 開発->テスト		進行中	低		
	30016	sample	(REFERENCE) 開発->テスト		進行中	低		
	30015	path test	(REFERENCE) 開発->テスト		進行中	低		
	4					•		
	新規 開く コピー 削除 リフレッシュ マージ							
	6 件のレコードが読み込まれました。							

6. [結果] タブで [マージ] をクリックします。

[パッケージのマージ]ウィンドウで [オプション] タブが表示されます。

🕼 パッケージのマージ				×			
マージされたパッケージ情報				1			
ヘッダーのコピー元: 30017	💽 新規バッケージ者	<b>番号:</b> 30024					
説明: コピー~ 30017,30015							
ワークフロー: (REFEREN	NCE) 開発->テスト->本都	ŧ					
オブション 詳細							
パッケージ明細をコピー	●はい ○いいえ	ヘッダーのノートをコピー	つはい ついいえ				
クローズした明細をコピー	●はい ○いいえ	ヘッダーのユーザ データをコピー	●はい ○いいえ	-			
キャンセルした明細をコピー	○はい ○いいえ	新規バッケージを送信	○はい ○いいえ				
			OK キャンセ	JV I			
読み込みが完了しました。							

7. [新規パッケージ番号] フィールドで、生成されたパッケージ番号をそのま ま使用するか、別の一意のパッケージ番号を入力します。

- 8. [**ワークフロー**] フィールドで、デフォルトのワークフロー名をそのまま使 用するか、オートコンプリートリストで別の名前を選択します。
- 9. [オプション] タブで、表示されているオプションに対して [はい] か [いいえ] を選択します。
- 10. [**OK**] をクリックします。

パッケージWorkbenchにより、新しい (マージした) パッケージを編集する かどうかを指定するよう求められます。

11. パッケージを編集するには、[**はい**] をクリックします。パッケージを保存 して閉じるには、[**いいえ**] をクリックします。

# 新規パッケージグループの作成

一般的に、トラッキングとレポートを目的として、新しいパッケージをパッ ケージグループにリンクすると便利です。パッケージをパッケージグループ にリンクすると、パッケージの検索やカスタムポートレットの作成にパッ ケージグループを使用できます。パッケージWorkbenchから、新しいパッケー ジグループを作成します。

パッケージグループを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [Package] メニューから、[New Package Group] を選択します。

ファイル 編集 ツール	ナビ	ゲート ウィンドウ	バッケージ	製品情報				
Demand Management	ゆバ	ッケージ Workbench	パッケーシ	7の明細のキャンセル	/			
Deployment Management	Ð	パッケージ 詳細	パッケーシ	の送信				
Time Mgmt	7 H	パッケージ番号:	新規パック	ージ グループ		クエリ:	なし	-
ダッシュボード	l ■	ワークフロー: [	マージ			パッケージ ステータス:	, すべて	-
環境	_ 提	アサイバスれたフーザー	1	作成者		<b>偏牛度</b>	オペア	<b></b>
推击		D. M. SCINCT DI		T FIDANE -		1367 6.56	12.20	

[Validation: PPM - Package and Request Groups] ウィンドウが開き、パッケー ジとリクエストの既存グループが表示されます。

🕼 検証:PPM - パック	ケージとリクエスト グループ			×
名前	: パッケージとリクエスト :	グループ ・	参照コード: PM_PACKAG	E_AND_REQUEST_C
<b>見</b> 日月	: バッケージおよびリクエス	、トのグループ化		
有効	e 🖂	ワークフ	ローで使用 🔽	
コンポーネント タイプ	ドロップ ダウン リスト			<b>v</b>
検証: リスト				~
検証値:				
シ コード	意味 説明 有効	デ		
2 SETUP	. ガスタ ガスタ Y し セットセット Y し	161 161		
3 UPGRADE	<u>アップアップ</u> Yし	161		
	新規 編集	削除	੯-元 🚹 🖶	
使用者 オーナ	ーシップ		ок (#	存 キャンセル
準備完了				

5. [New] をクリックします。

[Add Validation Value] ウィンドウで [Value Information] タブが表示されます。

🕼 検証値の追加	X
値情報 ユーザデータ	
意味:	
i兑8月:	
有効 🔽	デフォルド 🗖
	OK 追加 キャンセル
準備完了	

- 6. [Code] フィールドで、[パッケージグループ] リストの新しい項目のトーク ン名を入力します。
- 7. [Meaning] フィールドで、[パッケージグループ] リストのこの項目に表示す る名前を入力します。

- 8. [Desc] フィールドに、パッケージの簡単な説明を入力します。
- 9. 新しいリスト値を向こうにするには、[Enable?] チェックボックスをクリ アします。
- 10. この値が [パッケージグループ] リストでデフォルトで選択されるようにす るには、[Default] チェックボックスを選択します。

11. [OK] をクリックします。

# パッケージグループの編集

PPM Workbenchから、既存のパッケージグループを編集できます。[PPMパッケージとリクエストグループの検証]リストを変更できるのは、必要なアクセス許可とセキュリティ権限がある場合のみです。HP Deployment Managementでパッケージを操作するために必要なライセンスとアクセス許可の詳細については、『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

パッケージグループを追加または編集する前に、アプリケーション管理者に 相談してください。通常、パッケージグループの生成は、特定のビジネスア プリケーション基準に沿って行われます。

パッケージグループを編集するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- 2. メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。

PPM Workbench が起動します。

 ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. [Package] > [New Package Group] を選択します。

[Validation: PPM - Package and Request Groups] ウィンドウが開き、既存の パッケージグループが表示されます。 5. 変更するパッケージグループを選択して、[Edit] をクリックします。

[Edit Validation Value] ウィンドウが開きます。

ゆ 検証値の編集	×
値情報 ユーザデータ	
<mark>⊐−ド</mark> SETUP	
<u>意味</u> セットアップ	
説明 セットアップ	
有効 🔽	デフォルド 🗖
1	OK 適用 キャンセル
準備完了	

6. 必要に応じてフィールドの値を編集し、[OK] をクリックします。

新しい検証が [Validation : PPM - Package and Request Groups] ウィンドウに 追加されます。

7. [OK] をクリックします。

# パッケージの削除

パッケージWorkbenchからパッケージを削除できます。

パッケージを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbenchが起動します。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

4. すべてのパッケージのリストを表示するには、[**クエリ**] タブで [**リスト**] を クリックします。

[結果] タブにパッケージリストが表示されます。

5. 削除するパッケージを選択して、[削除]をクリックします。



隣接しない行を選択するには、[Ctrl] キーを押したまま選択します。隣接する行を選択するには、[Shift] キーを押したまま選択します。

パッケージWorkbenchにより、パッケージの削除を確認するよう求められます。

6. [**はい**] をクリックします。

# パッケージ明細のキャンセル

場合によっては、ファイルが古かったり不要になったりして、パッケージ明 細をキャンセルすることがあります。パッケージ明細をキャンセルするには、 パッケージWorkbenchを使用します。

パッケージ明細をキャンセルするには、次の手順を実行します。

- 1. PPM Center にログオンします。
- メニューバーから、[開く]>[管理]>[Workbenchを開く]を選択します。
   PPM Workbenchが起動します。
- ショートカットバーから、[Deployment Management] > [パッケージ] を選 択します。

パッケージWorkbenchが開きます。

 すべてのパッケージのリストを表示するには、[クエリ]タブで[リスト]を クリックします。

[結果] タブにリストが表示されます。

- 5. キャンセルする明細を含むパッケージを選択し、[**開く**]をクリックします。 [パッケージ] ウィンドウが開きます。
- 6. [パッケージ明細] タブで、キャンセルするパッケージ明細を選択します。
- 7. メニューバーから [パッケージ] > [パッケージの明細のキャンセル] を選択します。



# 索引

### D

Demand Management Deployment Management との統合, 20 Demand Management との統合, 20

Deployment Management, 20
Workbench の使用, 13
サードパーティアプリケーションとの統合, 20
統合, 19
バージョン制御との統合, 19
パッケージ, 10
標準インタフェースの使用, 13
プロセス, 10

### U

URL Workbench でパッケージに追加, 87 パッケージに追加, 110

#### W

Workbench パッケージの処理, 111 Workbench でのパッケージのマージ, 125

#### あ

アクセス Workbench でのパッケージ実行履歴にア クセス,**37**  Workbench でパッケージのグラフィック ビューにアクセス, 37
Workbench でパッケージの決定の詳細に アクセス, 39
Workbench でパッケージのワークフロー ステップ情報の URL にアクセス, 39
Workbench でパッケージ明細実行ログに アクセス, 36
Workbench でパッケージ明細の権限にア クセス, 38
Workbench でパッケージ明細のトランザ クション履歴にアクセス, 39

#### い

意思決定ワークフローステップ,16

#### お

オブジェクトタイプ Workbench での定義,54 カスタムオブジェクトの定義,15 定義,14 定義する場所,26 標準オブジェクトの定義,15 マイグレータの定義,15

#### か

カスタムオブジェクトタイプの定義,15 環境 環境 Workbench での確認,53 デプロイ管理,18 パッケージに対する定義,50

環境 Workbench, 53

管理 Workbench でパッケージを管理, 125

#### き

キャンセル Workbench でパッケージ明細をキャンセ ル,**132** 

#### Ξ

更新 Workbench でパッケージ参照を更新, 121 後続タスクの参照リレーションシップ, 42, 47

コピー Workbench でのパッケージの作成, **59** 

## さ

削除
Workbench でパッケージ参照を削除, 123
Workbench でパッケージを削除, 131
作成
Workbench でコピーを使ってパッケージ を作成, 59
Workbench でパッケージグループを作成, 127
Workbench でパッケージを作成, 57
Workbench でパッケージを参照として作成, 62, 64
パッケージ, 49
サブワークフローワークフローステップ, 16
参照
Workbench でのパッケージの作成, 62, 64

Workbench でパッケージから削除. 123

Workbench でパッケージに URL を追加, 87 Workbench でパッケージに既存パッケー ジを追加,74 Workbench でパッケージに既存リクエス トを追加,82 Workbench でパッケージにタスクを追加, 85 Workbench でパッケージに追加, 71, 121 Workbench でパッケージにパッケージを 追加,75 Workbench でパッケージにプログラムを 追加,77 Workbench でパッケージにリクエストを 追加,84 Workbench でパッケージにリリースを追 加,80 Workbench でパッケージを更新,121 Workbench でプロジェクトにパッケージ を追加,78 後続タスクリレーションシップ,42,47 先行タスクリレーションシップ,42,47 パッケージに URL を追加. 110 パッケージに既存の参照を追加,105 パッケージに既存パッケージを追加,98 パッケージにタスクを追加,109 パッケージに追加.96 パッケージにパッケージを追加,100 パッケージにプログラムを追加,102 パッケージにプロジェクトを追加,103 パッケージにリクエストを追加,107 パッケージにリリースを追加.104 パッケージのリレーションシップ.42 標準インタフェースでパッケージに添付 ファイルを追加.97 リレーションシップリスト.43

#### L

実行ワークフローステップ,16

条件ワークフローステップ, 16
承認 パッケージ, 92
[職務分掌]タブ, 52
処理 Workbench で意思決定を通してパッケー ジを処理, 116
Workbench で実行を通してパッケージを 処理, 118
Workbench でパッケージを処理, 111, 113
Workbench でワークフローステップを通 してパッケージを処理, 113
パッケージ, 90

#### せ

設定 Workbench でパッケージグループを設定, 129 Workbench でのパッケージの一般情報を 設定,65 Workbench でパッケージ明細を設定,66 先行タスクの参照リレーションシップ,42, 47

# そ

送信 Workbench でパッケージを送信,88 パッケージ,88

### た

タスク Workbench でパッケージに追加, 85 パッケージに追加, 109

#### っ

追加 Workbench で URL をパッケージに追加, 87 Workbench で進行中のパッケージにパッ ケージ明細を追加,123 Workbench でタスクをパッケージに追加, 85 Workbench でパッケージに既存パッケー ジを追加,74 Workbench でパッケージに既存リクエス トを追加,82 Workbench でパッケージに参照を追加, 71, 121 Workbench でパッケージにパッケージを 追加.75 Workbench でパッケージにプログラムを 追加,77 Workbench でパッケージにメモを追加, 70, 120 Workbench でパッケージ明細を追加, 66 Workbench でプロジェクトをパッケージ に追加,78 Workbench でリクエストをパッケージに 追加,84 Workbench でリリースをパッケージに追 加,80 パッケージに URL を追加, 110 パッケージに既存パッケージを追加,98 パッケージに既存リクエストを追加,105 パッケージに参照を追加,96 パッケージにタスクを追加,109 パッケージに添付ファイルを追加,97 パッケージにパッケージを追加,100 パッケージにプログラムを追加,102 パッケージにプロジェクトを追加,103 パッケージにリクエストを追加.107 パッケージにリリースを追加.104 標準インタフェースでパッケージにメモ を追加,95

通知

パッケージへのリンク,92

### τ

デプロイ管理 環境コンポーネント,18 添付ファイル 標準インタフェースでパッケージに追加, 97

## ٤

統合 Deployment Management, 19

#### は

バージョン制御 Deployment Management との統合, 19 パッケージ , 23 URL の追加, 110 Workbench, 31 Workbench で意思決定を通してパッケー ジを処理、116 Workbench でコピーを使って作成, 59 Workbench で参照を使って作成, 62, 64 Workbench で実行を通してパッケージを 処理,118 Workbench で進行中のパッケージに明細 を追加,123 Workbench での URL の追加, 87 Workbench での一般情報の設定, 65 Workbench での管理, 125 Workbench での既存パッケージの追加,74 Workbench での既存リクエストの追加,82 Workbench でのグラフィックビューへの アクセス、37 Workbench での決定の詳細へのアクセス, 39 Workbench での削除, 131 Workbench での作成, 57 Workbench での参照の更新, 121 Workbench での参照の削除, 123

Workbench での参照の追加, 71, 121 Workbench での処理, 111 Workbench でのステータスの確認,112 Workbench でのステップの処理, 113 Workbench での送信,88 Workbench でのタスクの追加,85 Workbench でのパッケージグループの作 成.127 Workbench でのパッケージグループの編 集,129 Workbench でのパッケージ実行履歴への アクセス、37 Workbench でのパッケージの追加,75 Workbench でのパッケージ明細のキャン セル、132 Workbench でのパッケージ明細の追加, 66 Workbench でのプログラムの追加, 77 Workbench でのプロジェクトの追加.78 Workbench でのマージ, 125 Workbench での明細実行ログへのアクセ ス,36 Workbench での明細の権限へのアクセス, 38 Workbench での明細のトランザクション 履歴へのアクセス、39 Workbench でのメモの追加, 70, 120 Workbench でのリクエストの追加,84 Workbench でのリリースの追加,80 Workbench でのワークフローステップ情 報の URL へのアクセス, 39 Workbench で開く、111 Workbench でワークフローステップを通 して処理,113 Workbenchの[パッケージ]ウィンドウの [参照]タブ,41 Workbench の [パッケージ] ウィンドウの [ステータス]タブ,35 Workbench の[パッケージ]ウィンドウの [パッケージ明細]タブ,34

Workbench の [パッケージ] ウィンドウの [XE] 97.40環境を定義するワークフロー、50 既存リクエストの追加,105 作成,49 参照の追加,96 参照リレーションシップ,42 承認,92 処理,90 送信,88 タスクの追加,109 定義, 10, 14 電子メール通知のリンクから開く,92 [パッケージ詳細]ページの[参照]セク ション、30 [パッケージ詳細]ページの[ステータス] セクション、29 [パッケージ詳細]ページの[ヘッダ]セ クション、29 [パッケージ詳細]ページの[メモ]セク ション、30 パッケージに追加,98 パッケージの追加,100 標準インタフェース,27 標準インタフェースでの添付ファイルの 追加.97 標準インタフェースでのメモの追加,95 開く,91 プログラムの追加,102 プロジェクトの追加,103 リクエストの追加,107 リリースの追加.104 パッケージ Workbench, 57 [パッケージ]ウィンドウ [パッケージ情報]セクション,32 [パッケージ情報]セクション [パッケージ]ウィンドウ.32 [パッケージの検索]ページ パッケージを開く.91

#### ひ

表示 Workbench でパッケージステータスを表示, 112 標準インタフェース パッケージ, 27 標準オブジェクトタイプの定義, 15 開く Workbench でパッケージを開く, 111 パッケージ, 91 [パッケージの検索]ページからパッケー ジを開く, 91 [マイパッケージ]ポートレットからパッ ケージを開く, 92

# ふ

プログラム
 Workbench でパッケージに追加,77
 パッケージに追加,102
 プロジェクト
 Workbench でパッケージに追加,78
 パッケージに追加,103

#### ま

マイグレータ、定義,15 [マイパッケージ]ポートレット パッケージを開く,92

#### め

メモ Workbench でパッケージに追加, 70, 120 標準インタフェースでパッケージに追加, 95

#### り

リクエスト Workbench でパッケージに追加, 82, 84 パッケージに追加, 105, 107

リリース Workbench でパッケージに追加, 80 パッケージに追加, 104

### わ

ワークフロー Workbench で意思決定を通してパッケー ジを処理、116 Workbench で実行を通してパッケージを 処理,118 Workbench でのパッケージの処理,113 定義,16 パッケージと環境,50 ワークフローステップのタイプ,16 ワークフローステップの定義.16 ワークフローステップ 意思決定,16 サブワークフロー,16 実行,16 条件,16 職務分掌,52